

令和7年度
福祉避難所開設訓練等支援業務委託

事業実施報告書

令和8年2月

目 次

| | |
|------------------------|----|
| 1. 事業の目的 | 1 |
| 2. 事業の実施 | 1 |
| 3. 各市の福祉避難所開設・運営訓練実施結果 | 2 |
| (1) 横須賀市 | 2 |
| (2) 三浦市 | 40 |
| (3) 鎌倉市 | 59 |
| 4. 今後に向けた提言 | 76 |
| 福祉避難所開設簡易マニュアル（行政職員向け） | 80 |
| 福祉避難所開設簡易マニュアル（協定施設向け） | 81 |

1. 事業の目的

大規模災害時に高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者（以下「要配慮者」という。）が避難する福祉避難所が円滑に開設、運営されることを目的として、市町村および福祉避難所開設・運営法人が行う平時の研修・訓練を支援するモデル事業を実施します。

2. 事業の実施

今年度は県内3市からモデル事業への応募があり、各市の要望を踏まえて福祉避難所の開設・運営訓練を実施しました。

| 市町村 | 日時 | 実施場所 |
|------|------------------------------|----------------|
| 横須賀市 | 令和7年12月17日（水） 9:30～11:00 | 横須賀市役所 すくすくかん |
| | 令和7年12月17日（水） 13:00～14:30 | 横須賀市内特別養護老人ホーム |
| 三浦市 | 令和8年1月23日（金） 13:30～15:30 | 三浦市内特別養護老人ホーム |
| 鎌倉市 | 令和8年1月30日（金） 14:00～16:00 | 鎌倉市内老人福祉センター |

3. 各市の福祉避難所開設・運営訓練実施結果

(1) 横須賀市

第1部

二次福祉避難所開設・運営訓練

一次福祉避難所の要配慮者スクリーニング訓練

① 日時 令和7年12月17日(水) 9時30分～11時00分

② 場所 横須賀市役所 すくすくかん 4階研修室

③ 訓練想定

12月15日(月)午前5時30分頃、神奈川県東部を震源とするM7.0の大地震が発生し、横須賀市で震度6強を観測しました。

横須賀市では直ちに災害対策本部を設置し、震災時避難所を開設しました。

震災時避難所には一次福祉避難所を開設し、対応にあたっていました。しかし、一次福祉避難所での生活が困難な避難者もいることから、市災害対策本部は二次・三次福祉避難所を開設することを決定しました。

④ 訓練タイムスケジュール

| | |
|------|--|
| 9:15 | 訓練参加者集合 |
| 9:30 | 開会式 ・神奈川県地域福祉課災害福祉グループ挨拶 ・横須賀市福祉こども部長挨拶 ・訓練概要の説明 |
| 9:35 | 市災害対策本部会議で「二次福祉避難所」開設決定 |
| | ▼二次福祉避難所開設訓練 設置場所：本町コミュニティセンター（建物安全点検実施済） 訓練①：従事する職員を派遣／福祉援護班 — 開設する施設に到着 — 訓練②：建物の安全確認 訓練③：(夜間想定)明かりの確保 訓練④：福祉避難所利用方針の検討 訓練⑤：居住スペースの設営 訓練⑥：避難者受付の設置 訓練⑦：情報掲示板の設置 訓練⑧：福祉避難所利用者ルール の 掲 示 |

| | |
|-------|---|
| | <p>訓練⑨：誘導・案内板の掲示</p> <p>訓練⑩：福祉避難所の開設準備完了報告</p> <p>▼一次福祉避難所の要配慮者スクリーニング訓練</p> <p>訓練①：スクリーニングの実施／保健師チーム</p> <p>訓練②：震災時避難所職員の情報共有</p> <p>▼二次・三次移行の優先度決定及び受け入れ施設の調整訓練</p> <p>訓練①：二次・三次移行優先度の決定／震災時避難所担当</p> <p>訓練②：二次・三次の受け入れ施設の調整／福祉援護班</p> <p>▼二次福祉避難所の避難者受け入れ訓練</p> <p>訓練①：受け入れ避難者情報の連絡／福祉援護班</p> <p>－ 避難者到着 －</p> <p>訓練②：避難者の受け入れ</p> |
| 10:50 | アンケート記入 |
| 10:55 | 閉会式 |
| 11:00 | 訓練終了 |

⑤ 訓練の実施

今回の訓練では、市職員が担当する二次福祉避難所の開設・運営訓練を実施しました。続いて、一次福祉避難所に避難している要配慮者を保健師チームがスクリーニングし、二次・三次福祉避難所への移行優先度の決定および受け入れ施設の調整を行う手順を確認しました。最後に、二次福祉避難所における避難者の受け入れ手順についても訓練しました。

▼事前準備





▼開会式



神奈川県地域福祉課災害福祉グループ挨拶



横須賀市福祉子ども部長挨拶

▼二次福祉避難所開設訓練

ア 従事する職員を派遣



イ 開設する施設に到着し、避難者受け入れ準備開始

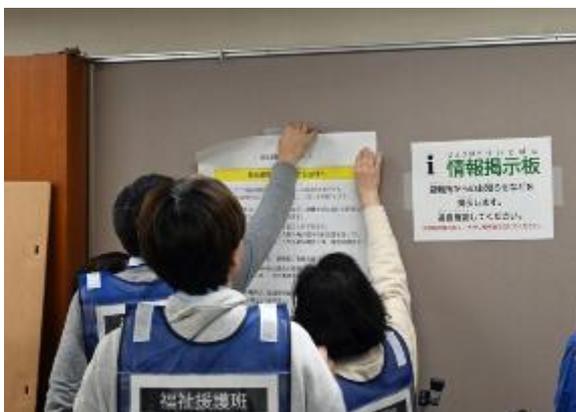




居住スペースの設営



エアマットの準備および体験



情報掲示板の設置



掲示物の表示



開設準備完了報告



開設準備完了を福祉援護班班長に報告

▼一次福祉避難所の要配慮者スクリーニング訓練





保健師チームが要配慮者および家族から話を聞いてスクリーニングの実施



スクリーニング結果を震災時避難所職員に情報共有

▼二次・三次移行の優先度決定及び受け入れ施設の調整訓練



▼二次福祉避難所の避難者受け入れ訓練



震災時避難所職員に避難先決定の連絡



避難者に避難先決定の連絡



二次福祉避難所職員に避難者情報を共有



避難者の受け入れ

⑥ 参加者アンケート集計結果

訓練参加者25名からアンケートの回答がありました。アンケート結果は以下のとおりです。

問1 あなたのご所属を教えてください。

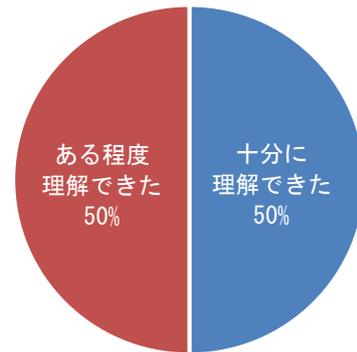
| 回 答 | | 回答数 | 割合 |
|-----|----------------|------|-------|
| 市職員 | 地域福祉課 | 3 | 12.5% |
| | 障害福祉課 | 6 | 25.0% |
| | 生活支援課 | 2 | 8.3% |
| | 介護保険課 | 3 | 12.5% |
| | 健康増進課 | 1 | 4.2% |
| | 地域健康課 | 3 | 12.5% |
| | 保健所企画課 | 1 | 4.2% |
| | 保健所企画課健康危機管理担当 | 3 | 12.5% |
| | 保健所保健予防課 | 1 | 4.2% |
| その他 | 0 | 0.0% | |
| 無回答 | 0 | 0.0% | |

問2 今回の訓練には、どのような形で参加されましたか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|---------------|-----|-------|
| 実働参加者（ビブス着用者） | 22 | 91.7% |
| 見学者 | 2 | 8.3% |
| その他 | 1 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |

問3 今回の訓練を通じて、福祉避難所の開設・運営について理解を深めることができましたか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|-------|
| 十分に理解できた | 12 | 50.0% |
| ある程度理解できた | 12 | 50.0% |
| あまり理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |



問4 問3でそのように回答した理由を自由にお書きください。

1. 流れ・イメージの把握（訓練で全体像が見えた）
 - ・ 実際に訓練を受けて、どういったことが大変かイメージできた。
 - ・ 流れに沿って実施したので。
 - ・ 流れに沿って動いてみることで、必要なポイントを押さえることができ、イメージしやすくなった。
 - ・ 各場面における具体的なイメージがついた。
 - ・ 実際の動きをなんとなくイメージできたから。
 - ・ 実際にやることで、避難所開設・運営の実際の流れがよくわかる。
 - ・ 開設までの動きがわかったから。
 - ・ 実際にやってみることで、イメージが湧きました。
 - ・ 実際に行う動きが理解できた。
2. 実践を通じた具体的理解（実演・物品・動きの確認）
 - ・ エアマットの準備等を実際に行うことができたため。
 - ・ マニュアルだけではイメージしにくかったが、実演することで流れが理解できた。
 - ・ 目で見て参加して動きが確認できたため。
 - ・ 書類上だけではなく、実際に身体を動かしてシミュレーションしてみることで、理解が深まったと感じた。
3. 引き継ぎ・連絡・連携の理解
 - ・ 2次、3次への引き継ぎが具体的にイメージできました。
 - ・ 連絡の流れ、必要物品など、実際にやって理解できた。
4. 知識の獲得（福祉避難所・トリアージ・新たな学び）
 - ・ 福祉避難所の存在は知っていたが、対象者の絞り込み方法や具体的な内容を知ることができたため。
 - ・ 知らないことが多かったので、有意義だったと思う。
 - ・ 保健師のトリアージの重要さがわかりました。
5. 役割と組織全体の理解（担当外も含む）
 - ・ スクリーニングの担当なので、直接は関係ないが、一連の流れについて理解できた。
 - ・ 一連の流れを実際に行うことで、自分の役割と併せて、市全体の流れが理解で

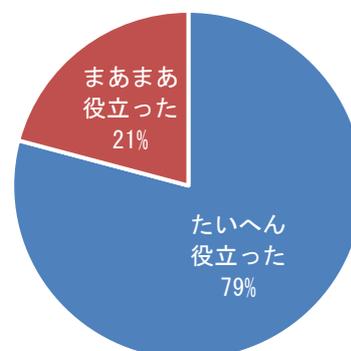
きた。

6. 計画の改善点の把握

- ・ 実際の流れを見ながら訓練ができたので、現在の活動計画に足りない部分があることがわかり、大変参考になった。

問5 今回の福祉避難所開設・運営訓練は、あなたにとって役立ちましたか？

| 回答 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| たいへん役立った | 19 | 79.2% |
| まあまあ役立った | 5 | 20.8% |
| あまり役立たなかった | 0 | 0.0% |
| 役立たなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |



問6 問5でそのように回答した理由を自由にお書きください。

1. 不安の軽減・備えの醸成

- ・ 実際にやってみて、いざというときに対応できるような気がしてきた。不安が軽減された。
- ・ 訓練することで、戸惑うことが減るような気がしました。
- ・ 実際の流れが明確になり、被災したときの心づくりができた。

2. 流れ・イメージの把握（多様なパターンの理解を含む）

- ・ 実際の動きがイメージできた。
- ・ 3つの事例を通して、いろいろなパターンの想定ができた。
- ・ 実際に体験できたことが大きい。
- ・ 実際に体験することで、イメージすることができた。

3. 実践を通じた具体的理解・知識の獲得

- ・ 投光器や段ボールのパーテーション作成等の知識を得られた。
- ・ 福祉避難所の掲示物など、足りないもの、事前に準備できるものなどがあることがわかってよかった。

4. 役割・自身の動きの理解

- ・ 自分の役割の中で、どこを確認するのかを含めて考えることができた。

- ・ 実際にやってみることで、自身の動きも理解（イメージ）できてよかったです。
5. 連携・所属横断の学び
- ・ 自分が所属している健康部と、今回のテーマである福祉避難所は密接に連携していく必要があることを再確認できたため。
 - ・ 自分の所属部ではないが、参考になったので。
6. 参加意義・訓練の価値
- ・ 内容が濃くてよかったです。
 - ・ 簡易な訓練でも、一度でも経験するとイメージが湧くので、ありがたいと思いました。
 - ・ なかなかない訓練に参加できた。

問7 それぞれの訓練について、どんな「課題」や「改善点」がありましたか？

▼二次福祉避難所開設訓練について

1. 設営作業の負荷・人手・時間的課題・役割分担
- ・ エアマットに空気を入れる作業はかなり大変だった。声を掛け合って協力しながら進めるとよいと思った。
 - ・ 設営（パーテーション、ベッド）は避難者の手を借りてやらないと、何十セットも作るのは無理だと感じた。
 - ・ 開設までの準備に時間を要すること。
 - ・ 実際には役割というか、手の空いている職員が次の動きを取るだろうことが予想できました。リーダーは作業に入らない方がよいと思いました。
 - ・ 職員だけでは設営に限界があるが、一方で一般の方の協力も得にくい難しさがあったと思う。
 - ・ スピードが求められ、複数で作るため、あらかじめ多くの職員ができるようになることが必要だと思い、課題だと感じた。
2. マニュアル・機材の取り扱い・物品管理
- ・ 設備のマニュアルがあるとよい（投光器、エアマットなど）。
 - ・ 機材の取り扱い。
 - ・ 担当者が物品の準備や使い方を理解しているのかが心配になった。
 - ・ 実際の物品を改めて確認・使用することができ、組み立てに思ったより時間がかかることや、動作しないものがあり、日頃の確認が必要と感じた。
 - ・ 実際の荷物の場所などがすぐ把握できるか心配になりました。
 - ・ 機材は実際に組み立ててみないと、いざというときに役に立たないと改めて感じた。パーテーションは組み立てに人手も時間もかかることから、テント型などより簡便なものの方がよいと感じた。
3. 平時の把握・準備の必要性
- ・ 日頃から、組み立てや物品について把握できると、準備もスムーズかと思いました。
4. 訓練の有用性・総評

- ・ よかったです。
- ・ 初見で準備するのは、やり方の説明がなかったためスムーズにはできなかったが、訓練を通して一度でもやってみると大丈夫かなと思いました。
- ・ 実際に設置するのに、この訓練がなかったら、何をどうしてよいのかわからなかったと思う。

▼一次福祉避難所の要配慮者スクリーニング訓練について

1. 訓練の評価・運営（実践性・丁寧さ・シナリオ）
 - ・ 実践に近くてよかったです。
 - ・ 丁寧にできていた。
 - ・ 演技力、設定の細かさ。
2. 受け入れ基準・連携（2次・3次、ADL）
 - ・ スクリーニング後の受け入れについて、同じようなADLの状況でも、施設の受け入れ状況や混雑具合によって受け入れ基準が変わると思うので、2次、3次の受け入れ状況が共有できるとよいかと思いました。
 - ・ どのくらいの支援が必要であれば2次避難所をお願いできるのか。受け入れ能力にもよるが、2次避難所の受け入れ基準が難しいと感じた。
3. 情報共有・報告の工夫
 - ・ 健康対策部内での情報共有方法。
 - ・ より情報を絞って報告が上がってくるため、時間があれば理由も記載してあげるとよい。
4. 聞き取り・スクリーニングの方法と課題
 - ・ 聞き取りによって判断が違うものなのかなと思いました。
 - ・ 要配慮者に負担のかからない質問技法も学ぶ必要があると思いました。
 - ・ 何を聞き取り、一時避難所にいられない理由を明確にすること。記載をすること。必要に応じて医療につなぐ案件かどうかの振り分け。避難所での配慮で対応できるかどうか判断になるので聞き取りが必要。そのアドバイスは誰ができるのかを考えました。
 - ・ 丁寧な聞き取りが重要である反面、必要な人全員に同じようなヒアリングを行うのは時間が相当かかる印象を持った。聞き取りの書式など、さらなる工夫が必要と感じた。
5. 設定・バランスに関する指摘
 - ・ 要支援者が全員男性という設定はいかがなものかと思いました。

▼二次・三次移行の優先度決定及び受け入れ施設の調整訓練について

1. 連絡・情報共有の課題とツール
 - ・ 連絡先が複数になるため、チェックが必要。
 - ・ 健康課保健師→障害福祉課保健師→福祉援護班→災害時運営担当と、連絡の流れが多く、所在も異なるため、連絡が難しいと感じた。途中で途切れないようにする良い方法を検討したい。

- ・ 伝言ゲーム的になるので、関係者になるべく一度に情報共有できるツールがあると、対応も漏れなくスピーディーになると思いました。
2. 受け入れ基準・判断プロセス・責任
 - ・ 基準（2・3次の振り分け）が不明確。
 - ・ どのような状態の方を受け入れ決定するかの細かなルールや基準を作るべきではないかと感じた。
 - ・ 実際のところ、判断の意見が割れることも想定され、誰が判断の責任を負うのかと思いました。
 - ・ いろいろと気づくことや、個人的な改善点も発見できた。2次、3次と結論を先に伝えてから調整班に依頼する方がスムーズに進むと思いました。今回、2名で話し合っただけで判断内容に相違があった場合の調整は時間がかかると思われ、課題だと感じました。
 - ・ 受け皿が少ない中では、初めからきちんとできることが大切ではないかと思えます。
 3. 事例検討の提案
 - ・ 実際にいろいろな事例を検討してみるのもよいと思いました。
 4. 訓練の評価・総評
 - ・ よかったです。

▼二次福祉避難所の避難者受け入れ訓練について

1. 受け入れ時の説明・案内方法
 - ・ 受け入れ時の説明の仕方。講師の方の助言にもあったように、留意点などを紙にまとめ、高齢者などにもわかる、後から読み返せるようにするのがよいと思いました。
 - ・ ルールの説明は、案内を配布する方法も併用した方がよいと思いました。点字の案内もほしいです。
 - ・ 受付で説明を聞く余裕（身体・気持ち）があるかどうか。
 - ・ 受付でのルール説明よりも、人数が少ないのならば、生活スペースでの説明でもよいのではないか。その場での臨機応変な対応が必要になると思いました。
2. 受け入れ体制の現実的制約・検討事項
 - ・ 2次福祉避難所に受け入れができて、ヘルパー派遣などはできない（現在その想定がない）ので、現実的にどのようなことができるか考えないといけないと思った。
3. トラブル想定・リスク対応
 - ・ 受け入れ時のトラブルの想定なども必要かなと思いました。
4. 訓練の評価・総評
 - ・ よかったです。

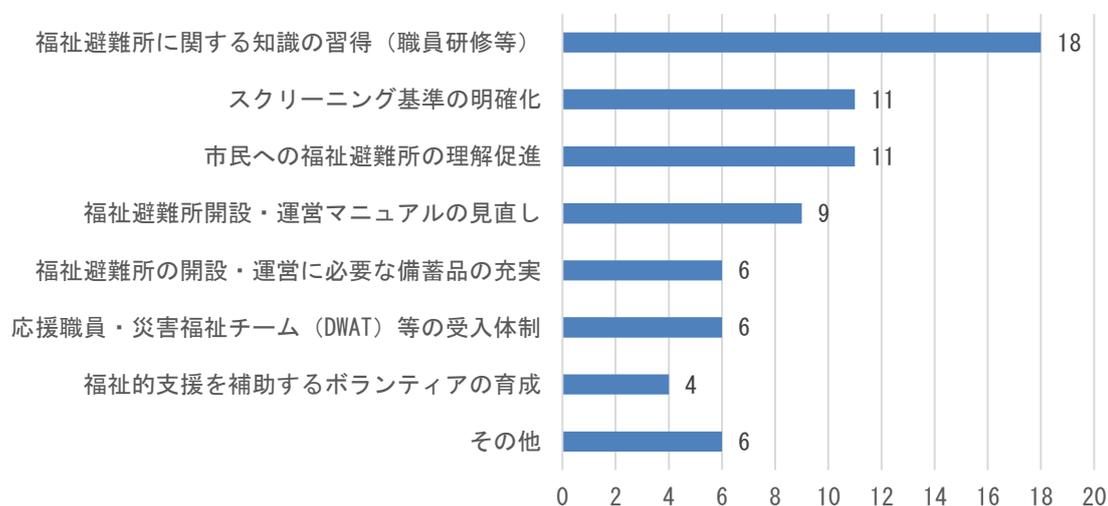
▼その他、訓練全般について

1. 訓練の評価・学び

- ・ とてもためになりました。
 - ・ 役割分担がしっかりできていてよかった。
 - ・ ありがとうございます。
 - ・ スクリーニング訓練について、運営側職員が実際に見ることができて勉強になった。
2. 進行・説明の明確さ
- ・ 進行役の説明がなくても、参加者が何をしているのかイメージできているのか。
3. 役割理解・体制
- ・ それぞれの役割を理解することができた。
 - ・ 係長級向けの訓練内容のため、一般職やリーダー級の参加も必要になるかと思いました。
4. 実施規模・頻度の提案
- ・ 何年かに1度、もう少し大きな規模でやってもよいかもしれません。

問8 福祉避難所の開設・運営において、今後、特に力を入れて取り組むべき課題は何だと思いますか？（複数回答可）

| 回 答 | 件数 | 割合 |
|--------------------------|----|-------|
| 福祉避難所に関する知識の習得（職員研修等） | 18 | 62.5% |
| スクリーニング基準の明確化 | 11 | 45.8% |
| 市民への福祉避難所の理解促進 | 11 | 45.8% |
| 福祉避難所開設・運営マニュアルの見直し | 9 | 37.5% |
| 福祉避難所の開設・運営に必要な備蓄品の充実 | 6 | 25.0% |
| 応援職員・災害福祉チーム（DWAT）等の受入体制 | 6 | 25.0% |
| 福祉的支援を補助するボランティアの育成 | 4 | 16.7% |
| その他 | 6 | 25.0% |

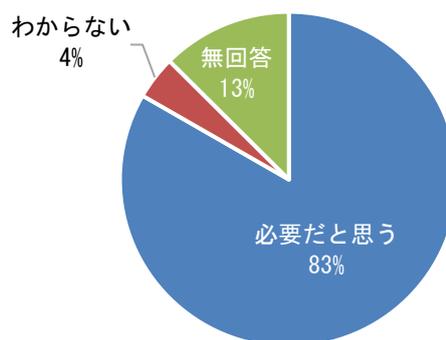


▼「その他」の回答

| | |
|-----------------|--|
| 1. 実施継続・参加拡大 | ・ 継続して実施し、多くの職員が参加すること。 |
| 2. 役割・体制の明確化 | ・ ③、⑤に関連して、誰が何の役割を担うのかを明確にし、それぞれが自分の役割を認識することが大事であると感じました。 |
| 3. 訓練内容の提案（実技） | ・ ①は実技も含むとよい。 |
| 4. 基準の整備（柔軟な運用） | ・ ④について、完全な基準ではなく、ある程度の基準があるとよいと思いました。 |
| 5. 継続性・人事異動への対応 | ・ 従事する職員の訓練。 ・ 訓練しても忘れてしまう。異動で顔ぶれが変わってしまう。 |

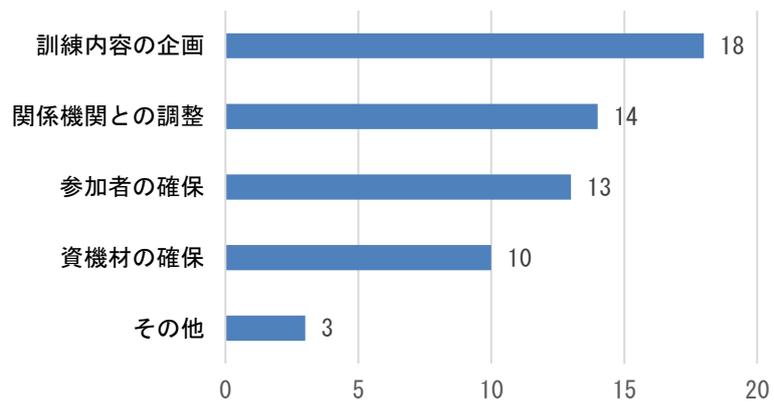
問9 来年度以降も、福祉避難所開設・運営訓練を続けていくことが必要だと思いますか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|--------|-----|-------|
| 必要だと思う | 20 | 83.3% |
| 必要ではない | 0 | 0.0% |
| わからない | 1 | 4.2% |
| 無回答 | 3 | 12.5% |



問10 来年度以降、福祉避難所開設・運営訓練を実施するにあたり、課題となることはありますか？（複数回答可）

| 回 答 | 件数 | 割合 |
|----------|----|-------|
| 訓練内容の企画 | 18 | 66.7% |
| 関係機関との調整 | 14 | 58.3% |
| 参加者の確保 | 13 | 54.2% |
| 資機材の確保 | 10 | 41.7% |
| その他 | 3 | 12.5% |



▼「その他」の回答

- ・ 多くの職員が体験しておいた方がよいのではないかと思います。
- ・ 訓練の一部を切り取ってでも、体験を実施することは必要だと思います。
- ・ 発電機（屋外でしか使えないため、その調整も必要）など、普段使用しないものについては、一度経験しておくとうよいと思います。

問 11 本日の訓練についてのご感想・ご意見を自由にお書きください。

1. 訓練の評価・感謝

- ・ 災害時の心の備えができました。大変有意義な訓練企画をありがとうございました。
- ・ 大変貴重な機会でした。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 貴重な経験になりました。ありがとうございました。
- ・ 簡易なものでしたが、役に立ちました。ありがとうございました。
- ・ こういった訓練は、とても重要で必要だと思います。

2. 実践体験・学び

- ・ 実際に身体を動かし、訓練することは大事だと思います。
- ・ 保健師の方がどのように質問してくるのか経験できてよかった。居住スペースは2人なら入るが、3人だとかなり狭そうだと感じた。
- ・ マニュアルは読んでいたが、実際に訓練すると、これまで聞いていなかった情報や抜けているところを見直すことができた。実際に経験してみることで、いざというときに動けるようになる。
- ・ 実際に触る、組み立てるなどの体験ができてよかった。もう少し担当者同士のラリーがある内容だと、訓練としてさらに実践に近くなると思った。

3. 継続・参加拡大

- ・ 大変ためになりました。今後も継続するのがよいと思います。
- ・ 毎年これだけの規模の訓練を行うのはなかなか大変ですが、なるべく多くの職員が役割の基本的なところを学べる機会が必要だと感じました。

4. 運営・準備負荷・自前実施の提案

- ・ 訓練開催に当たり、多大な準備が必要だったと思います。貴重な訓練の機会を

いただき、感謝申し上げます。

- ・ 初めての訓練でとてもよかったです。自前で企画・実施できるようになれば、内部で人がもっと育つのではないかと思いました。本松さんをはじめ、いろいろ大変だったと思います。ありがとうございました。

5. 通信・連絡手段の懸念

- ・ 開設を行ったことがなかったので、とてもためになる訓練でした。実際に被災した際に、連絡手段がつながるのかなと思いました。

⑦ 訓練の検証結果

ア 理解度・有用性について

理解度では「十分に理解できた」50.0%・「ある程度理解できた」50.0%と、参加者全員が一定以上の理解を得たとの結果となりました。

有用性においても「たいへん役立った」79.2%・「まあまあ役立った」20.8%と、こちらも全員がポジティブな評価を示しています。

自由記述では、「マニュアルだけではイメージしにくかったが、実演することで流れが理解できた」「身体を動かしてシミュレーションしてみることで理解が深まった」など、座学では得られない実践的な体験学習の効果が多数確認されました。また、「保健師のトリアージの重要さがわかった」「2次・3次への引き継ぎが具体的にイメージできた」といった、組織横断的な理解の深まりも見受けられました。

全体として、本訓練は参加者の理解促進・実務への備えという点で高い効果を発揮したと評価できます。

イ 各訓練における主な課題と改善点

各訓練で寄せられた意見を整理すると、以下のとおりです。

□ 二次福祉避難所開設訓練

- 設営の人手・時間・負荷の問題が最も多く指摘されました。エアマットへの空気入れ、パーテーション組み立てなど、職員だけでは対応に限界があるとの意見が複数寄せられました。一般の方の協力も得にくいという難しさも課題として挙げられています。
- 機材・備蓄品の取り扱いと日頃の管理確認についても指摘が集中しました。「実際に組み立ててみると動作しないものがあった」「設備マニュアルの整備が必要」など、平時からの確認・習熟の必要性が浮き彫りとなりました。
- 改善点として、設備ごとの操作マニュアルの作成、およびより簡便な代替機材の検討（例：テント型パーテーション）が提案されています。

□ 一次福祉避難所 要配慮者スクリーニング訓練

- 聞き取り・判断基準の標準化が主な課題でした。「聞き取りによって判断が違う可能性がある」「丁寧な聞き取りが重要だが、全員への対応は時間がかかる」といった意見が寄せられ、聞き取り書式や質問技法のさらなる工夫が求められています。
- 2次・3次との受け入れ基準の共有・連携についても課題が挙げられました。施設の混雑状況によって受け入れ判断が変わるため、リアルタイムでの情報共有の仕組みが必要との声がありました。
- また、事例の設定に偏りがあるとの指摘（「要支援者が全員男性」）も挙がり、多様な想定事例の設定が改善点となります。

□ 二次・三次移行の優先度決定および受け入れ施設調整訓練

- 連絡経路の複雑さと情報伝達の滞りが最大の課題でした。複数部署をまたぐ連絡フローが「伝言ゲーム的になる」と指摘され、関係者が一度に情報共有できるツールの整備が提案されています。
- 受け入れ基準・判断権限の不明確さも多く指摘されました。「誰が最終判断の責任を負うのか」「2次・3次の振り分け基準が不明確」など、意思決定プロセスのルール化が急務です。

□ 二次福祉避難所 避難者受け入れ訓練

- 受け入れ時の説明・案内方法の工夫が求められました。口頭説明に加え、文書配布・点字案内の併用、および避難者の状態に応じた柔軟な対応（受付ではなく生活スペースでの説明など）が提案されています。
- ヘルパー派遣など福祉的支援の実施可能範囲についても、現実的な検討が必要との意見がありました。

ウ 今後の重点課題

今後、特に取り組むべき課題は以下のとおりです。

| 課題項目 | 件数 | 割合 |
|-----------------------|-----|-------|
| 福祉避難所に関する知識の習得（職員研修等） | 18件 | 62.5% |
| スクリーニング基準の明確化 | 11件 | 45.8% |
| 市民への福祉避難所の理解促進 | 11件 | 45.8% |
| 福祉避難所開設・運営マニュアルの見直し | 9件 | 37.5% |

「職員研修等による知識習得」が最多となっており、今後は実技を含む研修の充実が最優先事項となります。また、「スクリーニング基準の明確化」と「マニュアルの見直し」は訓練の実効性を高めるうえで密接に関連しており、訓練で得た気づきを計画・マニュアルに反映していく仕組みの構築が重要です。

さらに自由記述では、「異動で顔ぶれが変わっても対応できる体制づくり」「係長級だけでなく一般職・リーダー級への参加拡大」など、継続性・組織横断性の確保も重要な視点として挙げられています。

エ 訓練継続の必要性

問9では、83.3%の参加者が「来年度以降も訓練の継続が必要」と回答しており、訓練継続への強い支持が示されました。

一方、問10では継続実施にあたっての課題として、訓練内容の企画（66.7%）・関係機関との調整（58.3%）・参加者の確保（54.2%）・資機材の確保（41.7%）が上位に挙げられており、運営面での負荷軽減が今後の継続に向けた鍵となります。

「自前で企画・実施できるようになれば、内部で人がもっと育つ」という意見にあ

るように、外部支援に依存しすぎない内製化・自走化の仕組みづくりも検討が必要です。また、「訓練の一部を切り取ってでも体験の機会を設ける」という提案のように、毎年大規模な訓練を実施するだけでなく、規模・形式を柔軟に組み合わせた継続的な実施計画の策定が求められます。

まとめ

今回の訓練は、参加者全員が「理解できた」「役立った」と回答するなど、初回訓練として非常に高い効果を発揮しました。実際に身体を動かして体験することの重要性が参加者に強く認識されており、訓練の土台は確実に築かれています。

一方で、設営作業の人手・機材管理・連絡体制・受け入れ基準など、実際の災害時に直結する実務的課題も多数明らかとなりました。これらは今回の訓練があったからこそ見えてきた成果でもあり、次回以降の訓練や計画改善に積極的に活かすべきものです。

今後は、今回の気づきをマニュアル・基準の見直しに反映しつつ、より多くの職員が体験できる機会の創出と、訓練の継続・内製化に向けた体制整備を着実に進めていくことが重要です。福祉避難所の開設・運営能力の向上は、要配慮者の命と安全を守るための基盤であり、組織全体での継続的な取り組みが強く求められます。

第2部

三次福祉避難所開設・運営訓練

① 日時 令和7年12月17日（水） 13時00分～14時30分

② 場所 横須賀市内特別養護老人ホーム 多目的ホール

③ 訓練想定 第1部と同じ

④ 訓練タイムスケジュール

| | |
|-------|---|
| 12:50 | 訓練参加者集合 |
| 13:00 | 開会式 ・神奈川県地域福祉課災害福祉グループ挨拶 ・横須賀市福祉こども部長挨拶 ・訓練概要の説明 |
| 13:05 | <p>▼BCPに基づく施設の初動対応訓練</p> <p>— 地震発生 —</p> <p>訓練①：利用者・職員の安否確認と建物被害等の確認 訓練②：本部の設置と全職員への参集連絡</p> <p>— 理事長、施設長、参集職員が到着 —</p> <p>▼三次福祉避難所開設・運営訓練</p> <p>訓練①：三次福祉避難所の開設に向けた協議 訓練②：市から施設の被害状況等の報告</p> <p>— 市から三次福祉避難所の開設要請 —</p> <p>訓練③：市から三次福祉避難所開設要請の連絡 訓練④：対策本部会議の開催 訓練⑤：避難者受け入れ準備（ベッドの準備）</p> <p>— 市から避難者の受け入れ要請 —</p> <p>訓練⑥：市から避難者受け入れ要請の連絡 訓練⑦：避難者受け入れ準備（避難者の受け入れ調整） 訓練⑧：避難者の受け入れ</p> <p>▼直接避難者が施設に避難して来た場合の対応訓練</p> <p>ア 普段の施設利用がなく、震災時避難所に避難すべき人 イ 普段ショートステイを利用し、自宅が大きな被害を受けた人</p> |
| | <p>「神奈川県災害福祉チーム（DWAT）の紹介」</p> <p>説明：神奈川県地域福祉課災害福祉グループ</p> |

| | |
|-------|---------|
| 14:50 | アンケート記入 |
| 14:55 | 閉会式 |
| 15:00 | 訓練終了 |

⑤ 訓練の実施

今回の訓練は、市と協定を締結している特別養護老人ホームを会場に、三次福祉避難所の開設・運営訓練を実施しました。BCPに基づく施設の初動対応から始まり、開設手順の確認、避難者の受け入れ手順、さらに直接施設へ避難してきた方への対応までを一連の流れとして訓練しました。

▼事前準備



▼開会式

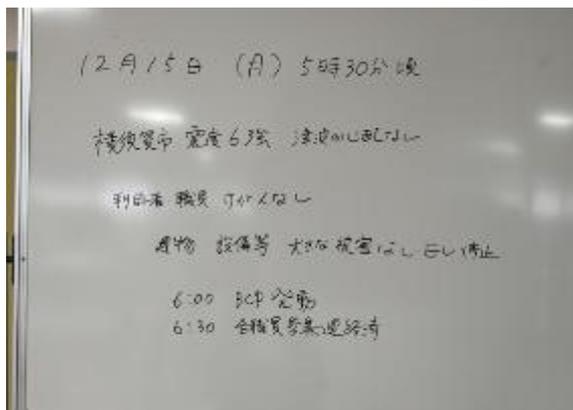


神奈川県地域福祉課災害福祉グループ挨拶



横須賀市福祉こども部長挨拶

▼BCPに基づく施設の初動対応訓練



▼三次福祉避難所開設・運営訓練



参集して来た理事長に状況報告



福祉避難所の開設可否を事前協議



市から送付された様式に施設の被害状況などを記入して報告



市から三次福祉避難所の開設要請





避難者の受け入れ準備



市から避難者の受け入れ要請

理事長に避難者情報を報告



避難者受け入れについて協議

避難者の受け入れ可を市に連絡



避難者の受け入れに向けた協議



介護職員に避難者情報を共有



1階玄関に到着した避難者を迎えに行く



避難者到着



EV 停止中、担架を使って2階へ搬送





避難者を介護ベッドへ移動

▼直接避難者が施設に避難して来た場合の対応訓練



▼神奈川県災害福祉チーム（DWAT）の紹介



▼閉会式



⑥ 参加者アンケート集計結果

訓練参加者30名からアンケートの回答がありました。アンケート結果は以下のとおりです。

問1 あなたのご所属を教えてください。

| 回 答 | | 回答数 | 割合 |
|-----------------|-------|-----|-------|
| 訓練実施特別養護老人ホーム職員 | | 9 | 30.0% |
| 三次福祉避難所協定締結施設職員 | | 10 | 33.3% |
| 市職員 | 地域福祉課 | 2 | 6.7% |
| | 障害福祉課 | 3 | 10.0% |
| | 介護保険課 | 3 | 10.0% |
| | 指導監査課 | 2 | 6.2% |
| その他 | | 1 | 6.7% |
| 無回答 | | 0 | 0.0% |

▼「その他」の回答

- ・特別養護老人ホーム 1件

問2 今回の訓練には、どのような形で参加されましたか？

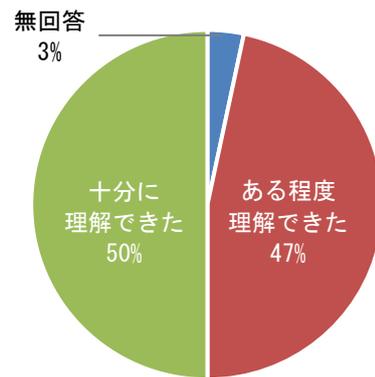
| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|---------------|-----|-------|
| 実働参加者（ビブス着用者） | 16 | 53.3% |
| 見学者 | 13 | 43.3% |
| その他 | 1 | 3.3% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |

▼「その他」の回答

- ・2次、3次への調整後の動きを確認するため 1件

問3 今回の訓練を通じて、福祉避難所の開設・運営について理解を深めることができましたか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|-------|
| 十分に理解できた | 15 | 50.0% |
| ある程度理解できた | 14 | 46.7% |
| あまり理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 1 | 3.3% |



問4 問3でそのように回答した理由を自由にお書きください。

1. 流れ・イメージの把握（説明の明確さを含む）
 - ・ 1つ1つ説明をいただきながら、流れを学ぶことができ、とても分かりやすかったです。
 - ・ 流れを行いながら適時説明もあったため、理解しやすかった。
 - ・ だいたいの流れを把握できました。
 - ・ 初動から受け入れまでの流れが訓練により把握できた。
 - ・ 3次福祉避難所開設～受け入れの流れを実際に見ることができ、イメージできた。
 - ・ 現実とのギャップがあり、全部を理解するのは難しかったが、流れについては理解できた。
2. 実践体験・学び
 - ・ 実践を伴った訓練で我が事として体験できたため。
 - ・ 体験することで学べた。
 - ・ 解説していただきながら進行していただいたので、わかりやすかったです。
3. 役割・担当としての注意点と課題の把握
 - ・ 現在の担当として、何に注意して業務を行うかがよく分かり、課題も見えてきた感じでした。
4. 連携の流れ・書式への示唆（改善含む）
 - ・ 実際に見たことで、市と協定施設との一連の流れをイメージできた。市の聞き取り票の参考になり、改善案にもつながった。
5. 受け入れ対象・手順・情報連携の理解
 - ・ 受け入れ対象者について理解できた。
 - ・ 具体的な手順と受け入れ方を見ることができ、情報のやり取りについても理解できた。
6. 3次福祉避難所での対応方針・装備検討
 - ・ 3次避難所の対応について、避難してきた方々の事情上、どのあたりまで介入するか、また、断るという選択もあり得ることがわかり、よかったです。自施設でも、階上へ上がるための担架などを検討したいと思います。
 - ・ 3次福祉避難所での受け入れについて、実際に訓練の流れの中で、説明のタイミングや情報の取り方などを知ることができて、非常に有意義な時間でした。

7. 運営評価（準備・進行）

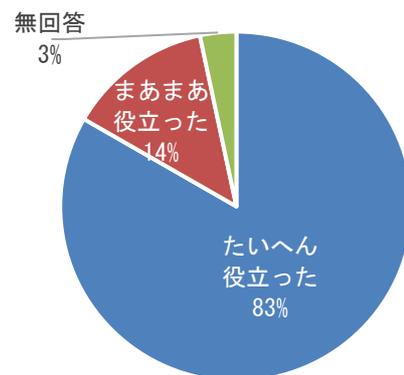
- ・ 施設の職員の皆さんが、しっかりと準備した上で臨んでいただいたおかげで、スムーズに訓練ができ、流れが分かりやすかったと思います。

8. 訓練の評価・感謝

- ・ 今後の訓練に役立つ参加でした。ありがとうございました。
- ・ 2次福祉避難所開設について経験することで、今後の訓練に大いに役に立つと思います。
- ・ 流れがひと通り確認できたことは大変参考になった。ただ、緊急なことが実際の災害時は多いと思う。あらゆる想定が必要とも感じた。

問5 今回の福祉避難所開設・運営訓練は、あなたにとって役立ちましたか？

| 回答 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| たいへん役立った | 25 | 83.3% |
| まあまあ役立った | 4 | 13.3% |
| あまり役立たなかった | 0 | 0.0% |
| 役立たなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 1 | 3.3% |



問6 問5でそのように回答した理由を自由にお書きください。

1. 流れ・イメージの把握

- ・ どのように行えるかがよくわかりました。
- ・ 一連の流れを確認できた。
- ・ 発生からの流れを確認できました。
- ・ 訓練によって、より理解ができた。
- ・ 実践することにより、理解を深めることができた。

2. 3次福祉避難所・担当シミュレーション

- ・ 現在は2次担当だが、3次担当になったときのシミュレートができた。
- ・ 3次福祉避難所のイメージが、これまでより具体的につかむことができた。

3. 情報収集・連絡手段の検討

- ・ 情報収集は、スマホ以外の手段も考えた方がよいのではないかと思います。

4. 実践体験・学び・評価

- ・初めての参加でした。勉強になりました。
- ・被災時の対応がよかった。
- ・今までそのような知識がほとんどなかったため。
- ・体験することで学べた。
- ・防災担当として参考になる内容でした。

5. 自施設への展開・訓練の必要性

- ・自施設でも、まずは同様の訓練が必要だと感じた。
- ・資料を自分の施設用にアレンジして活用できると思います。
- ・施設内BCPの振り返りとなった。
- ・改めて、福祉の体制や避難について考えるきっかけになった。

6. 連携の理解

- ・他施設や行政との連携を見ることができた。

7. 個別ケース対応の検討

- ・実際に助けを求めて自分で来られた方への対応を、軽度者の場合はどうすればよいか悩むところがありました。

問7 今回の訓練全般を通して「課題」や「改善点」にはどんなことがありましたか？

1. 受け入れの優先・依頼方法

- ・人数（受け入れ可能数）が少ないため、必要な人の受け入れをどう依頼するか。

2. 連絡・情報収集・通信途絶時の対応

- ・受け入れ側が追加情報を必要とする場合の対応や、連絡体制の整備も必要ではないかと思った。
- ・避難を拒まれた人への対応について、マニュアルの整備が必要だと感じた。
- ・通信インフラが止まっているときはどうするか。

3. マニュアル整備・標準化

- ・第1部もそうだが、マニュアル等の充実が課題だと思う。
- ・共有する情報内容は、ある程度マニュアルに示しておくことが課題だと感じました。
- ・福祉避難所に対する説明や設置基準を事前知識として周知しておく。訓練前の準備として必要だと思う。
- ・情報がまるでない状況から、何をどこまで聞き取れるかが課題だと思う。

4. 連携・関係構築

- ・受け入れ施設の大変さがわかり、実際に開設を依頼する際に配慮すべきことの参考となった。だからこそ、日頃から市と施設の良好な関係を保つことが課題だと考える。

5. イレギュラー対応の難しさ

- ・イレギュラーへの対応が難しいと感じました。

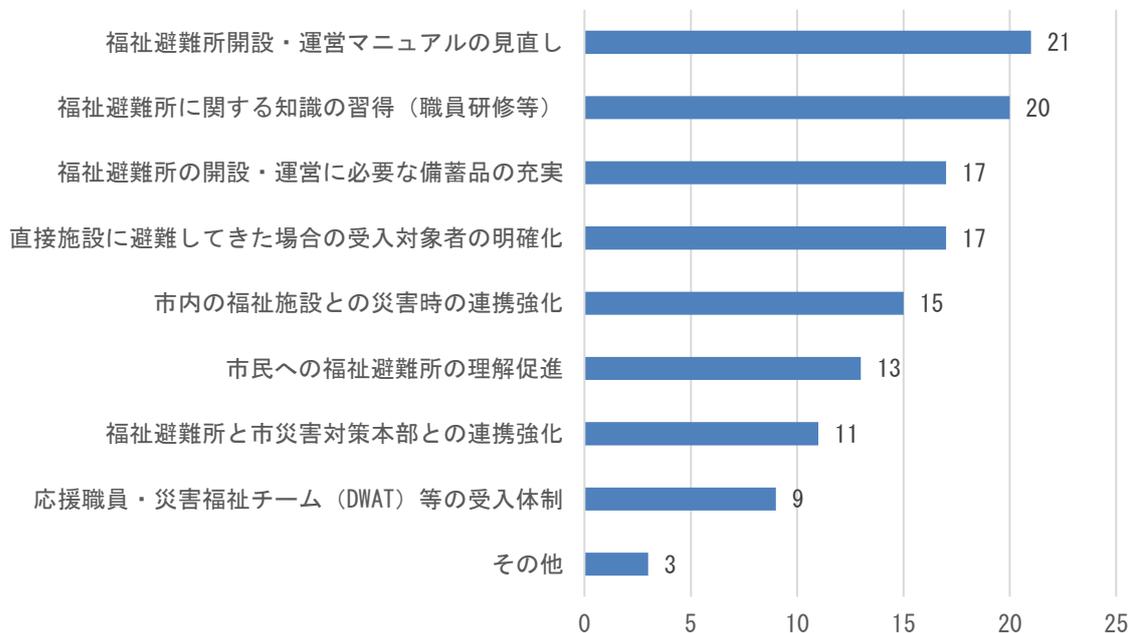
6. 訓練の実施・周知・人員

- ・全職員の周知のため、施設内独自でも訓練の実施が必要だと感じた。

- ・ 人員の確保。
7. 訓練の評価・進行
- ・ 流れは解説付きで、わかりやすかった。

問8 福祉避難所の開設・運営において、今後、特に力を入れて取り組むべき課題は何だと思えますか？（複数回答可）

| 回 答 | 件数 | 割合 |
|--------------------------|----|-------|
| 福祉避難所開設・運営マニュアルの見直し | 21 | 70.0% |
| 福祉避難所に関する知識の習得（職員研修等） | 20 | 66.7% |
| 福祉避難所の開設・運営に必要な備蓄品の充実 | 17 | 56.7% |
| 直接施設に避難してきた場合の受入対象者の明確化 | 17 | 56.7% |
| 市内の福祉施設との災害時の連携強化 | 15 | 50.0% |
| 市民への福祉避難所の理解促進 | 13 | 43.3% |
| 福祉避難所と市災害対策本部との連携強化 | 11 | 36.7% |
| 応援職員・災害福祉チーム（DWAT）等の受入体制 | 9 | 30.0% |
| その他 | 3 | 10.0% |



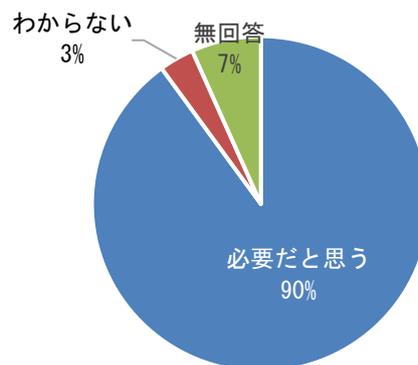
▼「その他」の回答

1. 連絡・通知のフォロー
 - ・ P9 の訓練 6 については、メール送信した旨を電話で伝える必要があると感じた。
2. 調整・連携

- ・ DWAT との調整。
3. 職員の理解・周知
- ・ 職員の理解。

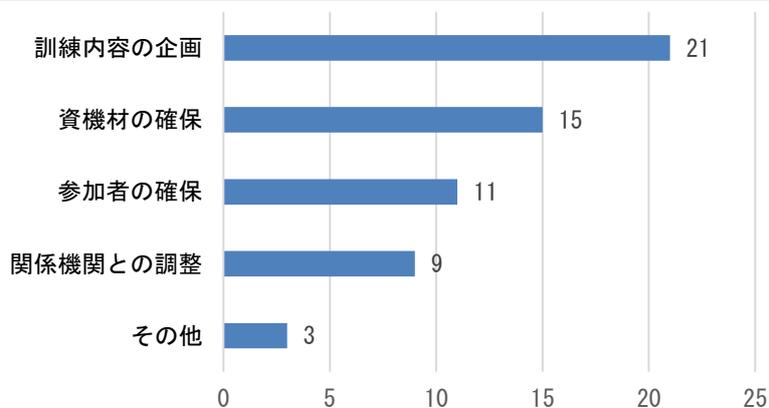
問9 来年度以降も、福祉避難所開設・運営訓練を続けていくことが必要だと思いますか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|--------|-----|-------|
| 必要だと思う | 27 | 90.0% |
| 必要ではない | 0 | 0.0% |
| わからない | 1 | 3.3% |
| 無回答 | 2 | 6.7% |



問10 来年度以降、福祉避難所開設・運営訓練を実施するにあたり、課題となることはありますか？（複数回答可）

| 回 答 | 件数 | 割合 |
|----------|----|-------|
| 訓練内容の企画 | 21 | 70.0% |
| 資機材の確保 | 15 | 50.0% |
| 参加者の確保 | 11 | 36.7% |
| 関係機関との調整 | 9 | 30.0% |
| その他 | 3 | 10.0% |



▼「その他」の回答

- ・ 準備のための人的負担が大きい。
- ・ 1カ所だけでなく、各施設での訓練に生かしていく。
- ・ 事前学習と市の計画共有。

問 11 本日の訓練についてのご感想・ご意見を自由にお書きください。

1. 受け入れ判断・運用上の課題
 - ・ 受け入れることと断ることの判断は大変だと感じた。誰を受け入れるかは緊急度も含めて重要だと思った。
 - ・ 施設側で対応した事後承認のケースや、受け入れ数をタイムリーに把握できるかは課題だと感じた。受け入れ側の対応も知ることができ、非常によかった。
2. 連携・役割・体制
 - ・ 施設での役割など、市役所以外の方との協力がないとできない部分を訓練できてよかったと思いました。
 - ・ 全施設が参加できる体制が整えばよいなと感じました（流れや注意点を知ることができたため）。
3. 人員・ケア負荷
 - ・ 実際に発災した際は、入所されている方へのケアに追われ、その判断や人員配置が大変になるだろうと感じました。
4. 訓練の継続・周知
 - ・ 定期的に行い、知識を身につける必要があると感じました。
 - ・ 何度も繰り返し訓練が必要だと思う。
5. 自施設への展開・運営指導・BCP
 - ・ 施設・事業所に運営指導に伺う際は、BCP も確認しているが、今日の訓練によりイメージがつかめた部分があるため、運営指導の際により的確な指導につなげていけたらと感じた。
 - ・ 大変有意義な訓練でした。今回の訓練をもとに、施設でも同様の訓練が行えればと思います。ありがとうございました。
6. 3次福祉避難所の理解深化
 - ・ 3次福祉避難所の開設から受け入れまでの流れの確認ができてよかった。今後は3次福祉避難所の運営についても理解を深めたいと思った。
7. 情報共有・設備紹介・学習会
 - ・ 最新の防災設備等の紹介を増やし、情報共有ができればよいと思います。また、他施設での課題等を共有して、自施設の防災のヒントにしたい。
 - ・ お疲れさまです。今後も学習会も含め、共有できるようになればと思います。
8. 見学の効果
 - ・ 初めて見学したことで、冷静に判断したり考えたりすることができた。
 - ・ 見学させていただき、ありがとうございました。
9. 訓練の評価・感謝
 - ・ 大変参考になりました。ありがとうございました。
 - ・ とても参考になりました。ありがとうございました。
 - ・ 参加させていただき、ありがとうございました。
 - ・ とても勉強になりました。
 - ・ 楽しく訓練に参加できました。8月頃から皆さんと協力し、災害への備えが形になり、動けるようになりました。本日はありがとうございました。

⑦ 訓練の検証結果

ア 理解度・有用性について

理解度については、「十分に理解できた」が 50.0%、「ある程度理解できた」が 46.7% となり、回答者の 96.7%が訓練を通じて理解を深めることができたと評価しています。

有用性については、「たいへん役立った」が 83.3%、「まあまあ役立った」が 13.3% となり、96.6%が訓練を有用と評価しました。

自由記述においても、「流れを把握できた」「実践を通じて我が事として体験できた」「市と協定施設との連携イメージをつかめた」など、実践形式の訓練が理解促進に大きく寄与したことが確認されています。

イ 各訓練における主な課題と改善点

訓練で寄せられた意見を整理すると、以下のとおりです。

□ 受け入れ判断・優先順位の明確化

- 誰を受け入れ、誰を断るかの判断基準が難しく、緊急度を踏まえた運用ルールの整備が求められています。

□ 通信途絶時を含む連絡体制の整備

- 通信インフラが機能しない状況での情報収集・連絡手段について、スマートフォン以外の代替手段も検討すべきとの意見がありました。

□ マニュアルの充実・標準化

- 避難拒否者への対応、聞き取り情報の内容・範囲、事前知識の周知など、マニュアルに明示すべき事項が複数指摘されています。

□ 日常的な市と施設の関係構築

- 実際の依頼場面を想定し、市と協定施設が日頃から良好な関係を維持しておくことの重要性が改めて認識されました。

□ 施設内での独自訓練の実施

- 今回の訓練で得た知識を全職員に周知するため、各施設での自主訓練の必要性が指摘されています。

ウ 今後の重点課題

今後、特に取り組むべき課題は以下のとおりです。

| 課題項目 | 件数 | 割合 |
|-----------------------|------|-------|
| 福祉避難所開設・運営マニュアルの見直し | 21 件 | 70.0% |
| 福祉避難所に関する知識の習得（職員研修等） | 20 件 | 66.7% |
| 開設・運営に必要な備蓄品の充実 | 17 件 | 56.7% |
| 直接避難してきた場合の受入対象者の明確化 | 17 件 | 56.7% |
| 市内の福祉施設との災害時の連携強化 | 15 件 | 50.0% |

特にマニュアルの見直しと職員研修は突出した支持を得ており、制度・知識両面での基盤整備が急務です。また、直接避難してきた方への対応基準の明確化は、実災害時に即座に影響する現場課題であることから、早期の検討が望まれます。

エ 訓練継続の必要性

問 9 では、90.0%の参加者が「来年度以降も訓練の継続が必要」と回答しており、訓練継続への強い支持が示されました。

一方、問 10 では継続実施にあたっての課題として、「訓練内容の企画」（70.0%）が最も多く挙げられており、マンネリ化を防ぎながら段階的にレベルアップした訓練内容の設計が求められています。また「資機材の確保」（50.0%）・「参加者の確保」（36.7%）なども継続実施における実務的な障壁として認識されています。

自由記述では「定期的に行い知識を身につける必要がある」「何度も繰り返し訓練が必要」との意見も寄せられており、一過性ではなく継続的な取り組みとして位置づけることが重要です。

まとめ

今回の訓練は、参加者の 96%以上が理解度・有用性の両面で高評価をつけており、三次福祉避難所の開設・運営に関する基本的な流れの習得という目的を達成できた訓練と言えます。

一方で、マニュアルの整備・標準化、通信途絶時の対応、受け入れ基準の明確化など、実災害時に直結する課題が複数浮き彫りになりました。これらは一施設だけでは解決できない課題も含まれており、市・協定施設・関係機関が連携して取り組む必要があります。

訓練継続への意欲は参加者全体に高く、今後は「訓練して終わり」ではなく、訓練で得た気づきをマニュアル改善や施設内展開へとつなげる PDCA サイクルを確立していくことが、福祉避難所体制の実効性向上に向けた鍵となります。

(2) 三浦市

② 日時 令和8年1月23日(金) 13時30分～15時30分

② 場所 三浦市内特別養護老人ホーム① 地域交流室

③ 訓練想定

1月21日(水)午前5時30分頃、神奈川県東部を震源とするM7.0の大地震が発生し、三浦市で震度6弱を観測しました。この地震による津波の心配はありません。地震直後、施設では全館停電しました。

三浦市では直ちに災害対策本部を設置し、避難所を開設しました。

一般の避難所での生活が困難な避難者も確認されたため、市災害対策本部は二次福祉避難所の開設を決定し、三浦市内特別養護老人ホーム①に避難者の受け入れを要請しました。

また、近隣の三浦市内特別養護老人ホーム②では停電が続いているため、電気が復旧した三浦市内特別養護老人ホーム①に対し、酸素濃縮器を使用している利用者1名の受け入れを依頼しました。

④ 訓練タイムスケジュール

| | |
|-------|---|
| 13:15 | 訓練参加者集合 |
| 13:30 | 開会式 ・神奈川県地域福祉課災害福祉グループ挨拶 ・三浦市保健福祉部福祉課長挨拶 ・訓練概要の説明 |
| 13:35 | ▼BCPに基づく施設の初動対応訓練 — 地震発生 — 訓練①：利用者・職員の安否確認と建物被害等の確認 訓練②：対策本部の設置と全職員への参集連絡 — 施設長他、参集職員が到着 — ▼二次福祉避難所開設・運営訓練 訓練①：二次福祉避難所の開設に向けた協議 訓練②：施設の被害状況等を市に報告 — 市から二次福祉避難所の開設要請 — 訓練③：市から二次福祉避難所開設可否の確認と開設要請 訓練④：対策本部会議の開催 訓練⑤：居住スペースの設営 訓練⑥：避難者受付の設置 |

| | |
|-------|---|
| | <p>訓練⑦：情報掲示板の設置</p> <p>訓練⑧：福祉避難所利用者ルール の 掲 示</p> <p>訓練⑨：誘導・案内板の掲 示</p> <p>訓練⑩：福祉避難所の開設準備完了を市に報告</p> <p>— 市から避難者の受け入れ要請 —</p> <p>訓練⑪：市から避難者受け入れ要請の連絡</p> <p>訓練⑫：避難者受け入れ準備（避難者の受け入れ調整）</p> <p>訓練⑬：避難者の受け入れ</p> <p>▼直接避難者が施設に避難して来た場合の対応訓練</p> <p>ア 普段の施設利用がなく、一般の避難所に避難すべき人</p> <p>イ 普段ショートステイを利用し、自宅が大きな被害を受けた人</p> <p>▼三浦市内特別養護老人ホーム②の利用者の受け入れ訓練</p> <p>訓練①：三浦市内特別養護老人ホーム②の施設職員から利用者の受け入れ依頼</p> <p>訓練②：利用者の受け入れと介護情報等の引継ぎ</p> <p>▼断水時の既設トイレを使用した携帯トイレの設置訓練</p> |
| | <p>神奈川県災害派遣福祉チーム（神奈川 DWAT）の紹介</p> <p>説明：神奈川県地域福祉課災害福祉グループ</p> |
| 15:20 | アンケート記入 |
| 15:25 | 閉会式 |
| 15:30 | 訓練終了 |

⑤ 訓練の実施

今回の訓練は、市と協定を締結している三浦市内特別養護老人ホーム①を会場に、二次福祉避難所の開設・運営訓練を実施しました。BCPに基づく施設の初動対応から始まり、開設手順の確認、避難者の受け入れ手順、さらに直接施設へ避難してきた方への対応までを一連の流れとして訓練しました。

また、停電が続く近隣の三浦市内特別養護老人ホーム②と連携し、医療的ケア（酸素濃縮器使用）が必要な利用者の受け入れ訓練も実施しました。

▼事前準備



▼開会式

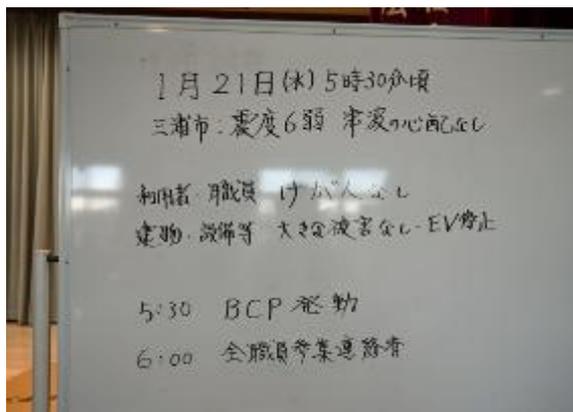


神奈川県地域福祉課災害福祉グループ挨拶



三浦市保健福祉部福祉課長挨拶

▼BCPに基づく施設の初動対応訓練



▼二次福祉避難所開設・運営訓練



参集して来た施設長に状況報告



福祉避難所の開設可否を事前協議



市から二次福祉避難所の開設要請



避難者の受け入れ準備開始指示



避難者の受け入れ準備



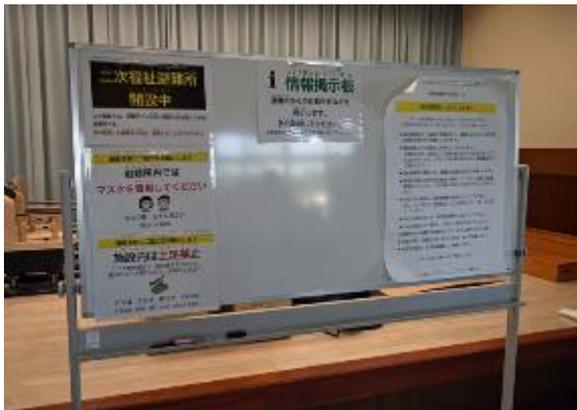
段ボールベッドの組み立て



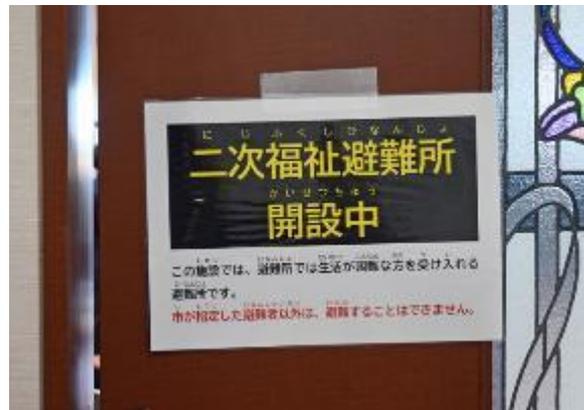
避難者受付の設置



情報掲示板の設置



掲示物の表示



市から避難者の受け入れ要請



施設長に避難者情報を報告



避難者の受け入れに向けた協議



介護職員に避難者情報を共有



市の受け入れ要請に基づく避難者が到着



必要な支援などの聞き取り



居住スペースに移動



▼直接避難者が施設に避難して来た場合の対応訓練



▼三浦市内特別養護老人ホーム②の利用者の受け入れ訓練



▼断水時の既設トイレを使用した携帯トイレの設置訓練



▼神奈川県災害福祉チーム（DWAT）の紹介



▼閉会式



⑥ 参加者アンケート集計結果

訓練参加者27名からアンケートの回答がありました。アンケート結果は以下のとおりです。

問1 あなたのご所属を教えてください。

| 回 答 | | 回答数 | 割合 |
|----------------|---------|-----|-------|
| 三浦市内特別養護老人ホーム① | | 7 | 25.9% |
| 三浦市内特別養護老人ホーム② | | 3 | 11.1% |
| 福祉避難所協定締結施設職員 | | 3 | 11.1% |
| 地域住民 | | 1 | 3.7% |
| 市職員 | 福祉課 | 1 | 3.7% |
| | 高齢介護課 | 1 | 3.7% |
| | 健康づくり課 | 2 | 7.4% |
| | 防災危機対策室 | 1 | 3.7% |
| その他 | | 8 | 29.6% |
| 無回答 | | 0 | 0.0% |

▼「その他」の回答

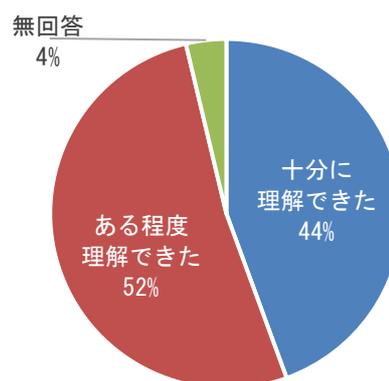
- ・ 県職員 2件
- ・ 神奈川県危機管理防災課 1件
- ・ 鎌倉保健福祉事務所三崎センター 2件

問2 今回の訓練には、どのような形で参加されましたか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|---------------|-----|-------|
| 実働参加者（ビブス着用者） | 9 | 33.3% |
| 見学者 | 18 | 66.7% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |

問3 今回の訓練を通じて、福祉避難所の開設・運営について理解を深めることができましたか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|-------|
| 十分に理解できた | 12 | 44.4% |
| ある程度理解できた | 14 | 51.9% |
| あまり理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 1 | 3.7% |



問4 問3でそのように回答した理由を自由にお書きください。

1. 訓練内容の理解・効果

- ・ 実際にかかる時間や雰囲気を経験できたこと、多くの役割が地域にあり、連携の上で準備が進んでいることを改めて学ぶことができた。
- ・ 全体の流れは理解できた。
- ・ 初めて見たため十分ではなかったが、ある程度理解できた。
- ・ 一次・二次の違いがよくわかった。
- ・ 実際の動きのイメージができた。
- ・ 施設において、福祉避難所をどのように運営していくかを実際に見ながら理解できた。
- ・ 訓練の実際を見て、開設から受け入れまでの流れがよく理解できた。
- ・ 丁寧な説明と進行スペースもゆったりしており、わかりやすかった。
- ・ 実際にどのスペースで受け入れるのか、市本部で入所決定された方がどのような流れで入所することとしているのかが本日わかった。
- ・ 福祉的な視点が入ってくるため、より多く気にかけることになると感じた。避難者の特性については知識が足りていなかった。
- ・ 実際の災害時に開設される場所の広さや職員の方の動きなどを直接確認できた。
- ・ 市との福祉避難所受け入れと、緊急ショートとしての受け入れなど、例がわかって理解しやすかった。
- ・ 様々なシチュエーションを想定されており、理解しやすかった。
- ・ 情報伝達が適切に行われていたように思った。

2. 訓練の運営・進行

- ・ 事前のシナリオや当日の進行役の方が適宜説明・補足をしてくださったため、場面がイメージしやすかった。

3. 実技・体験

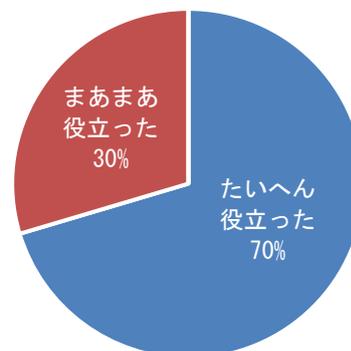
- ・ 実際にテントやベッドを設営した。市への受け入れ要請から受け入れまでの流れが学べた。
- ・ 実際に参加をして、地域での協力の必要性を感じた。入居者様の安全を守ること、施設全体での連携プレーの重要性を感じた。

4. 課題・不安・疑問

- ・ 当方は日中施設のため、夜間の対応をどうしたら良いのか分からなかった。
- ・ 災害時にどれだけ職員の参集ができるのかわからないので不安である。また、被害状況などにより、日頃の訓練のようにはいかないと思う。実際の災害の時にはやるしかないので、今回の訓練で体験したことを生かしたい。
- ・ 避難所にいる間は食糧支援や様々な応援チームが支援対応しているが、それらの部分は二次福祉避難所に入った時にはどうなるのか。また、どうしても移送手段が確保できない人の移送手段は市として何か考えているのか確認したい。
- ・ 実際にテントやベッドは市に必要な数がない。施設にある余剰のベッド等を活用していただくようになるのではないかと。物品がないと開設できないということにならないか。何が必要で、今何が不足しているのかを洗い出しておく必要があると思う。開設のイメージを多くの人に知ってもらうことが大切だと思った。

問5 今回の福祉避難所開設・運営訓練は、あなたにとって役立ちましたか？

| 回答 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| たいへん役立った | 19 | 70.4% |
| まあまあ役立った | 8 | 29.6% |
| あまり役立たなかった | 0 | 0.0% |
| 役立たなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |



問6 問5でそのように回答した理由を自由にお書きください。

1. 訓練内容の理解・イメージ形成

- ・ 今後の訓練に役立つものと思います。
- ・ 大体の動きが分かりました。
- ・ 福祉避難所というもののイメージが湧きました。
- ・ 災害時、二次福祉避難所が開設し、運営していく様子を具体的にイメージできました。
- ・ 全体の流れが良く分かりました。

- ・ 少しイメージにつながりました。
 - ・ 様々なシチュエーションを考えるきっかけとなりました。
2. 訓練方法・実施形態への評価
 - ・ 訓練を実際に見て、是非参考にしたいと思いました。
 - ・ なかなか実際の施設で行う訓練はないので、施設で施設の職員を使って実施していたのは良かったです。
 3. 連携・体制への気づき
 - ・ 地域の災害時の保健医療体制を考えていくに当たり、福祉との連携は重要と考えているためです。
 - ・ 様々な状況について考えることができました。
 4. 改善点・課題の指摘
 - ・ 訓練はスムーズに進行しましたが、連携方法など、見直しの必要があると思われます。連絡方法、移送方法などです。

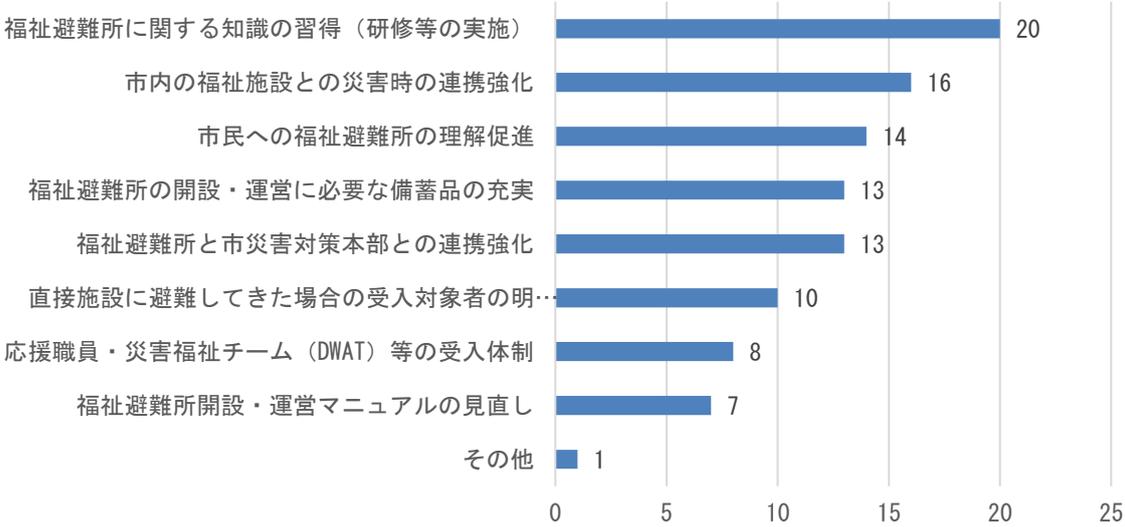
問7 今回の訓練全般を通して「課題」や「改善点」にはどんなことがありましたか？

1. 訓練内容・実施方法
 - ・ 別バージョンとして、被害やトラブルのあるパターンも検討してみても良いと思いました。
 - ・ テントや段ボールベッドの設置は、練習していないとすぐに設置できないのではないのでしょうか。また、道路状況によっては届けられない可能性もあります。
 - ・ 段ボールベッドの組み立てなど、戸惑ってしまいそうなので、日頃から体験したいと思います。
 - ・ 一度の訓練で全てを習得することは難しいと思われるため、繰り返し行うことが大事と感じました。
 - ・ 地域で実施する総合防災訓練内で連携を要する今回のような訓練を行っても良いと思います。
 - ・ もし時間に余裕があるなら、受け入れ後に市との調整を入れると良いかと思います。
2. 施設間の統一・標準化
 - ・ 各福祉避難所の様式や流れを、同じようにしていきたいです。今回、参加施設で違いがあるためです。
3. 停電・災害時の対応
 - ・ 停電時にどう動くのかも知りたいです。
 - ・ 実際の停電や施設の崩壊があった時等の対処も前もって検討しておくことが必要だと思いました。
4. 市・関係機関との連携
 - ・ 市災害対策本部との連携や、避難スペース全体の管理について確認したいです。
 - ・ ベッドの設営が複雑だったことや、他施設・市との連絡（電話、FAX）が困難だった場合も想定してみたいです。

- ・ 発災後、被害状況を報告するシステム運用も取り入れられると良いと思います。
 - ・ 受け入れる場合の数を市と共有しているので、受け入れ後の調整が必要かと思っています。
5. 受け入れ後の対応
- ・ 今後、受け入れた後の対応や施設支援の内容等を知りたいです。
6. 備蓄・備品
- ・ 備品（テント、ベッド等）の準備ができない場合は、どのようなもので代用するのか知りたいです。
 - ・ 受け入れる場合の備蓄などの確認も必要かと思っています。
7. 人員体制
- ・ 人員の確保が課題です。

問8 福祉避難所の開設・運営において、今後、特に力を入れて取り組むべき課題は何だと思いますか？（複数回答可）

| 回 答 | 件数 | 割合 |
|--------------------------|----|-------|
| 福祉避難所に関する知識の習得（職員研修等） | 20 | 74.1% |
| 市内の福祉施設との災害時の連携強化 | 16 | 59.3% |
| 市民への福祉避難所の理解促進 | 14 | 51.9% |
| 福祉避難所の開設・運営に必要な備蓄品の充実 | 13 | 48.1% |
| 福祉避難所と市災害対策本部との連携強化 | 13 | 48.1% |
| 直接施設に避難してきた場合の受入対象者の明確化 | 10 | 37.0% |
| 応援職員・災害福祉チーム（DWAT）等の受入体制 | 8 | 29.6% |
| 福祉避難所開設・運営マニュアルの見直し | 7 | 25.9% |
| その他 | 1 | 3.7% |

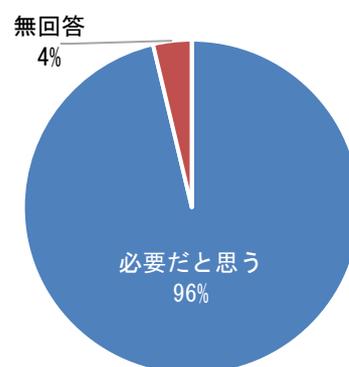


▼「その他」の回答

- ・ 想定の難度の区分けをスキルアップ。

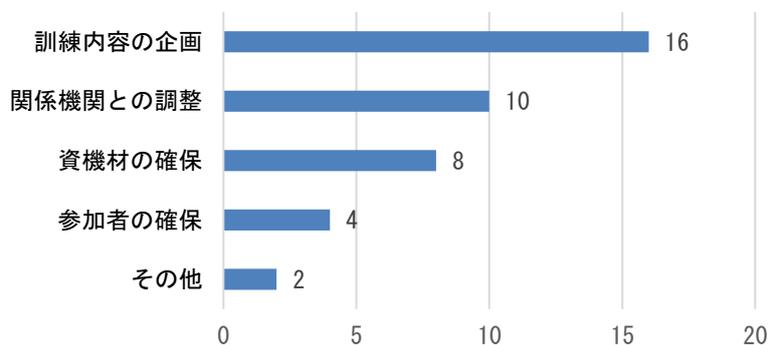
問9 来年度以降も、福祉避難所開設・運営訓練を続けていくことが必要だと思いますか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|--------|-----|-------|
| 必要だと思う | 26 | 96.3% |
| 必要ではない | 0 | 0.0% |
| わからない | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 1 | 3.7% |



問10 来年度以降、福祉避難所開設・運営訓練を実施するにあたり、課題となることはありますか？（複数回答可）

| 回 答 | 件数 | 割合 |
|----------|----|-------|
| 訓練内容の企画 | 16 | 48.1% |
| 関係機関との調整 | 10 | 37.0% |
| 資機材の確保 | 8 | 29.6% |
| 参加者の確保 | 4 | 14.8% |
| その他 | 2 | 7.4% |



▼「その他」の回答

- ・ 協定の施設は1回はやって良いと思う。又、周囲の施設に参加を促してはどうか。行政、施設、関連団体、チームを入れて行えるといい。地元自治体とDWATなど。
- ・ 訓練の必要性の理解度向上。

問 11 本日の訓練についてのご感想・ご意見を自由にお書きください。

1. 訓練内容・進行について

- ・ 今回のような訓練体験を、自施設において幅広くできるようになると良いと思いました。
- ・ 短時間での訓練だったが、内容が濃いものでした。
- ・ 避難者の受け入れをブラインドで実施しており、実際の対応をより想定しやすかったです。
- ・ シミュレーションがイメージにつながってよかったです。
- ・ 非常にいい訓練でした。

2. 学びや気づき

- ・ いろいろありがとうございました。今後に役立てていきたいと思います。
- ・ とても勉強になりました。
- ・ 入居者様や外来者の方の安全確保をするために、自分たちができる教育や準備をもっとする必要があると感じました。
- ・ 訓練であっても本番のようになると言われますが、協力、連携の大切さを改めて感じた訓練になりました。
- ・ 今回の訓練は、大変参考になりました。私たちは実際に大きな災害にあったことがないので、なかなかイメージできない部分もたくさんあります。日頃から、このような訓練に参加（実演）するなど、被災時に対応できるようにしたいと思います。

3. 今後の課題・改善提案

- ・ 施設職員にも参加してもらいたいです。
- ・ 横展開でき、また定期的に行えると定着すると思います。
- ・ 高齢者だけが福祉避難所を利用するとは限らないため、様々なパターンの訓練が必要だと思いました。受け入れ施設⇔市⇔県 HWC との連携強化も課題だと感じました。
- ・ 避難用品のテントやベッドの施設訓練について、用品が支給される施設は避難所だけですか。要介護3以上の利用であれば、要介護2までの方が一次避難所で生活できる体制づくりが必要です。
- ・ 避難スペースや養護老人ホームの空室など、どこに受け入れるか等、整理できる内容でわかりやすかったです。
- ・ 想定される内容についての訓練について、時間と手間をかけ、実施された方が良いと思います。また、実際に地震が起きた時、この内容では意味があるのか感じました。

4. その他

- ・ 施設が地域の方たちと協力して良くしていきたいです。
- ・ ありがとうございました。訓練に参加することができて、良かったです。
- ・ ありがとうございました。

⑦ 訓練の検証結果

ア 理解度・有用性について

理解度については、「十分に理解できた」が 44.4%、「ある程度理解できた」が 51.9%と、回答者の 96.3% が訓練を通じて福祉避難所の開設・運営について理解を深めることができたと回答しています。

有用性については、「たいへん役立った」が 70.4%、「まあまあ役立った」が 29.6%と、全員（100%） が訓練の有用性を認める結果となりました。

自由記述においても、「一次・二次の違いがよくわかった」「開設から受け入れまでの流れがよく理解できた」「実際の動きのイメージができた」といった前向きなコメントが多数寄せられており、初回訓練として高い成果を上げたと評価できます。

イ 各訓練における主な課題と改善点

訓練で寄せられた意見を整理すると、以下のとおりです。

□ 訓練内容・実施方法について

- テントや段ボールベッドの組み立て・設営は、繰り返し練習しないと迅速な対応が難しいとの意見が複数あり、日常的な体験機会の確保が必要です。
- 現状の「スムーズに進行するシナリオ」に加え、トラブルや被害が発生するパターンも取り入れた訓練の実施が望まれています。
- 停電や施設崩壊など、より過酷な状況を想定した対応手順の検討も課題として挙げられました。

□ 施設間の統一・標準化について

- 各福祉避難所で様式や手順に違いがあることが指摘されており、統一・標準化を進めることが求められています。

□ 市・関係機関との連携について

- 市災害対策本部との連絡調整、他施設間の情報共有、移送手段の確保など、連携体制の具体的な整備が必要です。
- 電話・FAX が使えない場合の連絡手段や、被害状況を報告するシステムの運用も課題として挙がりました。

□ 受け入れ後の対応・備蓄について

- 避難者受け入れ後の支援内容や施設への支援体制についての情報共有が不足しているとの声があります。
- テントやベッド等の備蓄品が不足している場合の代替手段についても、事前の検討・周知が必要です。

□ 人員体制について

- 災害時の職員参集が十分にできるか不安を感じる参加者も多く、夜間対応も含めた人員確保・体制構築が引き続き課題です。

ウ 今後の重点課題

今後、特に取り組むべき課題は以下のとおりです。

| 課題項目 | 件数 | 割合 |
|-----------------------|------|-------|
| 福祉避難所に関する知識の習得（職員研修等） | 20 件 | 74.1% |
| 市内の福祉施設との災害時の連携強化 | 16 件 | 59.3% |
| 市民への福祉避難所の理解促進 | 14 件 | 51.9% |
| 福祉避難所の開設・運営に必要な備蓄品の充実 | 13 件 | 48.1% |
| 福祉避難所と市災害対策本部との連携強化 | 13 件 | 48.1% |

上位の結果から、今後は「知識の習得」「施設間・行政との連携強化」「備蓄・体制整備」の3本柱を軸として、重点的な取り組みを進めることが求められています。

また、直接施設に避難してきた場合の受入対象者の明確化（37.0%）や、応援職員・DWATの受入体制（29.6%）、マニュアルの見直し（25.9%）についても、段階的に整備を進めることが望ましいです。

エ 訓練継続の必要性

問9では、回答者の96.3%が「来年度以降も訓練継続が必要」と回答しており、訓練継続への強い支持が示されました。

一方、問10では継続実施にあたっての課題として、「訓練内容の企画（48.1%）」「関係機関との調整（37.0%）」「資機材の確保（29.6%）」などが挙げられており、継続実施に向けた準備・体制づくりが不可欠です。

自由記述でも「繰り返し行うことが大事」「横展開でき、定期的に行えると定着する」「協定施設は1回は実施を」といった意見が寄せられており、訓練の継続・拡充に対する参加者の期待は非常に高いことがわかります。

まとめ

初回の取り組みとして参加者から高い評価を得ており、福祉避難所の理解促進と実践的なスキル向上に大きく貢献したと評価できます。

今後は、本訓練を通じて明らかになった課題—知識習得のための継続的な研修、施設間・行政との連携体制の強化、備蓄品や人員体制の整備—を着実に解消しながら、訓練の難度や想定シナリオの多様化を図ることが重要です。

また、訓練の対象を市内の未参加施設や地域住民・関係団体へと広げ、福祉避難所体制に関わるすべての関係者が共通認識を持てる環境を整えることで、実効性の高い福祉避難所体制の構築が期待されます。

引き続き、訓練の継続・改善を積み重ねていくことが、地域全体の防災力向上につながるものと確信します。

(3) 鎌倉市

① 日時 令和8年1月30日(金) 14時00分～16時00分

② 場所 鎌倉市内老人福祉センター

③ 訓練想定

1月27日(火)午前5時30分頃、神奈川県東部を震源とするM7.0の大地震が発生し、鎌倉市で震度6強を観測しました。この地震による津波の心配はありません。

鎌倉市は災害対策本部を設置し、指定避難所(ミニ防災拠点)を開設しました。

指定避難所には、高齢者や障害者などの要配慮者が避難してきており、福祉避難室を設置し対応していました。

1月28日(水)、市災害対策本部は、福祉避難所及び二次的避難所(社会福祉施設)を開設して、指定避難所から適切な避難先に移動をはじめました。

1月30日(金)、災害関連死を防止するための緊急対策の一環として、福祉避難所で生活している避難者の困りごとなどを把握し、適切な支援を行うため協定を締結している地域包括支援センターに専門職の派遣と県に対して神奈川 DWAT(災害派遣福祉チーム)の派遣を要請しました。

福祉避難所となった鎌倉市内老人福祉センターには、6組の避難者がいます。

④ 訓練タイムスケジュール

| | |
|-------|--|
| 13:45 | 訓練参加者集合 |
| 14:00 | 開会式 ・訓練の趣旨説明 ・神奈川県地域福祉課災害福祉グループ挨拶 ・鎌倉市健康福祉部福祉総務課長挨拶 ・訓練概要の説明 |
| 14:10 | 訓練①：避難スペースの設営 訓練②：福祉避難所への人的支援に関する協定に基づく支援要請(省略) 神奈川 DWAT(災害派遣福祉チーム)の派遣要請 — 地域包括支援センター職員2名が到着 訓練③：避難者の困りごと相談(避難者：4組) — 神奈川 DWAT 2名が到着 訓練④：情報共有会議の開催 — 停電発生 — 訓練⑤：プロパンガス式発電機の操作訓練 |
| | 意見交換会 |

| | |
|-------|---------|
| 15:50 | アンケート記入 |
| 15:55 | 閉会式 |
| 16:00 | 訓練終了 |

⑤ 訓練の実施

今回の訓練は、福祉避難所を開設した後に行う避難者の困りごと相談について、市と協定を締結している地域包括支援センターと連携し、支援の要請方法や困りごと相談の手順、情報共有会議の進め方などを確認することを主な目的として実施しました。また、計画上、最大9組の避難者を受け入れる想定となっていることから、避難スペースに9区画の受け入れが可能かどうかについても検証しました。

▼事前準備



▼開会式



神奈川県地域福祉課災害福祉グループ挨拶



鎌倉市健康福祉部福祉総務課挨拶

▼避難スペースの設営





段ボールベッドの組み立て



就寝体験



車椅子からダンボールベッドへの移乗体験



▼福祉避難所への人的支援に関する協定に基づく支援要請



▼避難者の困りごと相談



市から要請を受けた地域包括の職員到着



避難所運営チームから福祉避難所の状況等の説明





▼情報共有会議



▼プロパンガス式発電機の操作訓練





▼神奈川県災害福祉チーム（DWAT）の紹介



▼意見交換会



⑥ 参加者アンケート集計結果

訓練参加者25名からアンケートの回答がありました。アンケート結果は以下のとおりです。

問1 あなたのご所属を教えてください。

| 回 答 | | 回答数 | 割合 |
|--------------|-------------|-----|-------|
| 地域包括支援センター | | 5 | 20.0% |
| 鎌倉市内老人福祉センター | | 2 | 8.0% |
| 鎌倉市社会福祉協議会 | | 2 | 8.0% |
| 市職員 | 福祉総務課 | 0 | 0.0% |
| | 生活福祉課 | 3 | 12.0% |
| | 高齢者いきいき課 | 2 | 6.0% |
| | 市民健康課 | 1 | 4.0% |
| | 総合防災課 | 1 | 4.0% |
| | 腰越支所 | 2 | 8.0% |
| | その他（所属は無回答） | 4 | 16.0% |
| その他 | | 4 | 16.0% |
| 無回答 | | 0 | 0.0% |

問2 今回の訓練には、どのような形で参加されましたか？

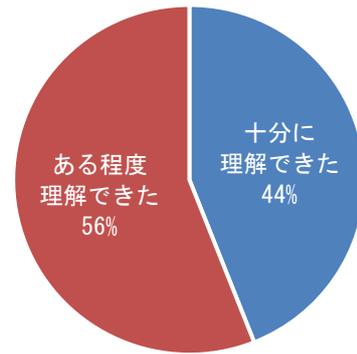
| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|---------------|-----|-------|
| 実働参加者（ビブス着用者） | 12 | 48.0% |
| 見学者 | 12 | 48.0% |
| その他 | 1 | 4.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |

▼「その他」の回答

- ・運営当事者 1件

問3 今回の訓練を通じて、福祉避難所の開設・運営について理解を深めることができましたか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|-------|
| 十分に理解できた | 11 | 44.0% |
| ある程度理解できた | 14 | 56.0% |
| あまり理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 3.7% |



問4 問3でそのように回答した理由を自由にお書きください。

1. 実践・体験を通じた理解

- ・ 実際にワークができたので、参考になりました。
- ・ 具体的な実践ができて、イメージが付きやすかった。
- ・ 具体的な事例や発電機の実際の操作があり、実演を通じて具体的な支援について想定でき、自分たちの役割を確認できた。
- ・ 実際のテント、段ボールベッドの組み立て、話し合いの様子などを体験できた。
- ・ 開設後の流れの演習を見学して理解できた。
- ・ 避難者役を担当しましたが、病状など詳細に設定されており、聞かれる質問などリアル感が非常に高く、アドリブが難しい部分もありました。しかしながら、質問する側の訓練としては、とても良いものになったのではないかと感じました。

2. 流れ・仕組みの理解

- ・ 開設・運営の流れがなんとなくわかりました。
- ・ どのような立場の方が、どのように関わってくるのか理解できた。
- ・ 実際にこのような事態が発生した場合の役割が明確化されていることを理解できました。
- ・ 実際に派遣された際に、どのような流れで、どのような仕事内容になるのか理解できた。
- ・ 鎌倉市の避難所開設・運営の仕組みと流れを理解することができた。

3. 初参加・初体験

- ・ 初めての機会だったので（参考になりました）。
- ・ 初めての参加で、実際の動きや流れがわかって良かった。

4. 当日の流れの把握

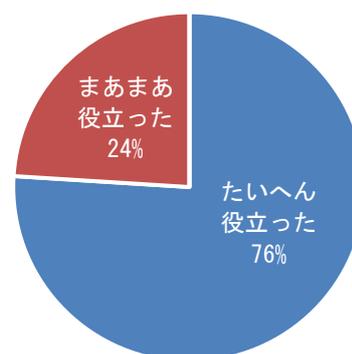
- ・ 実際の当日の流れがわかった。
- ・ 実際の開設の様子がイメージできました。細かいところでわかっていない部分が多いと思うので、日頃から意識しておかなければと感じました。

5. 課題・不足点の気づき

- ・ 避難所からの対象者選定や移送など、開設以前の流れについて、理解が不足していました。

問5 今回の福祉避難所開設・運営訓練は、あなたにとって役立ちましたか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| たいへん役立った | 19 | 76.0% |
| まあまあ役立った | 6 | 24.0% |
| あまり役立たなかった | 0 | 0.0% |
| 役立たなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |



問6 問5でそのように回答した理由を自由にお書きください。

1. 研修・訓練の体験・実践について
 - ・ 実際に避難テントを見せていただき、プライバシーの問題など、様々な課題が見えました。
 - ・ テントの設置および回収から、実際に対応する内容を体験できたため。
 - ・ 備蓄品の購入事務を担当していますが、実際にテントなどを広げて複数台設営する機会がないため、どの程度の圧迫感になるかなど把握できてよかった。
 - ・ パーテーションや段ボールベッドの組み立てを体験し、実際の施設利用イメージがついた。
2. 知識・理解の習得について
 - ・ 知識がないよりも、あった方がよい。
 - ・ ある程度のイメージができてよかった。
 - ・ 今後実際に派遣された際の流れを理解できたため。
 - ・ 実際の流れがわかったこと。
 - ・ 福祉避難所に来られる方のイメージをすることができました。
 - ・ 地域包括支援の役割も理解できたから。
3. 業務・役割への活用について
 - ・ 各関係者からの意見が聞けた。
 - ・ 普段どのような準備をしておかなければいけないかを整理し、課に持ち帰って検討したいと思います。
 - ・ 関わっているケースの方に、福祉避難所へ行かれるだろう対象の方がいるため。
 - ・ 福祉部門で働く立場として、必ず知っておくべきことであるため。

4. その他

- ・ 問4に同じ。
- ・ 問4と同じ。

問7 今回の訓練全般を通して「課題」や「改善点」にはどんなことがありましたか？

1. 設備・備品

- ・ 段ボールベッドの高さが低く、高齢者や障害のある方にとってはリスクが高いように思いました。
- ・ 今回の段ボールベッドは、高齢者や足の悪い方には立ち上がりにくい高さだと感じました。
- ・ 備蓄資機材の見直しが必要だと感じました。
- ・ テント9張の想定は難しいと感じました。テント内での介助のしにくさ（ポールなど支えがない点）も課題です。
- ・ 常にアップデートされた資機材を備える必要性を感じました。

2. 情報共有・記録

- ・ 情報の幅広い共有化（電子化）が必要だと思います。
- ・ 現場で使用する書式の見直しが必要だと感じました。
- ・ 食事（アルファ米）の対応が必要な方がいましたが、その情報をどこに上げて、どのように支援・共有していくか（誰が、何を、どのように）が整理できると良いと思います。また、つなぎ先がどこにあるのかわかっていないこともある気がしています。

3. 運営体制・スタッフ

- ・ 運営スタッフ向けに定期的な訓練を行わないと、実際には動けないと感じます。センターと職員の役割が明確になっていると動きやすいと思います。
- ・ 介護スタッフが常駐しないと、市の運営スタッフだけでは対応が難しいと感じました。

4. 避難者への対応・支援

- ・ 長期化した際には、避難者のメンタル面の問題にも気を配る必要があると感じました。
- ・ 避難者の方は、実際に素直に話してくださるのでしょうか。Dのような方が多いのではないかと感じました。
- ・ 福祉避難所に来る方は、障害や病気のある方がほとんどだと思います。聞き取りは医療関係者も行うのでしょうか。例えばAさんは脳梗塞であるにもかかわらず、水分摂取の状況や内服状況を確認していなかった点が気になりました。生活についての聞き取りは素晴らしかったと思います。

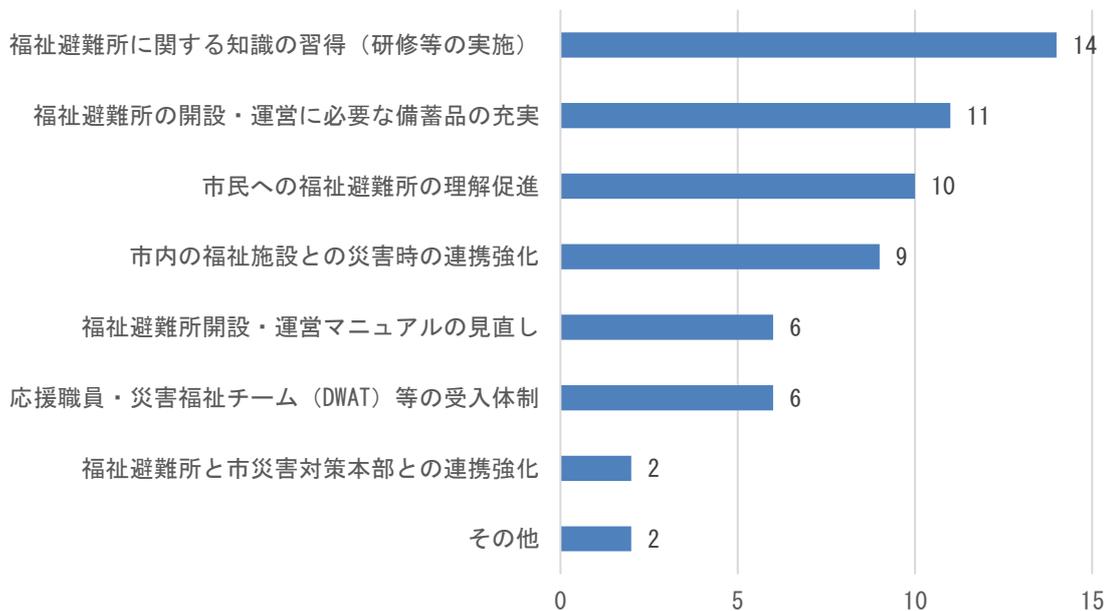
5. 個人情報・プライバシー

- ・ 利用者の情報を受け取る際、個人情報の関係から直接渡せず、見て書き写すという手間が生じています。この作業を省略できないのでしょうか（時間の短縮のため）。
- ・ 避難所の役を演じていて、自分の話す内容が周囲に聞こえてしまっていないか

気になりました。聞き取りは避難スペースではなく別のスペースに移動するか、プライバシーに配慮したパーティションを活用してもよいのではないかと感じました。

問8 福祉避難所の開設・運営において、今後、特に力を入れて取り組むべき課題は何だと思えますか？（複数回答可）

| 回 答 | 件数 | 割合 |
|--------------------------|----|-------|
| 福祉避難所に関する知識の習得（職員研修等） | 14 | 56.0% |
| 福祉避難所の開設・運営に必要な備蓄品の充実 | 11 | 44.0% |
| 市民への福祉避難所の理解促進 | 10 | 40.0% |
| 市内の福祉施設との災害時の連携強化 | 9 | 36.0% |
| 福祉避難所開設・運営マニュアルの見直し | 6 | 24.0% |
| 応援職員・災害福祉チーム（DWAT）等の受入体制 | 6 | 24.0% |
| 福祉避難所と市災害対策本部との連携強化 | 2 | 8.0% |
| その他 | 2 | 8.0% |

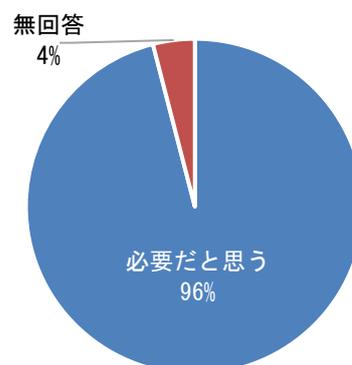


▼「その他」の回答

- ・ 運営訓練への定期参加と、動きの確認が必要です。
- ・ 実際に福祉避難所の対象となる方などに意見を聞くと良いと思います。
- ・ 各福祉避難所への避難想定者がどのくらいいるのか、把握が必要と感じました。

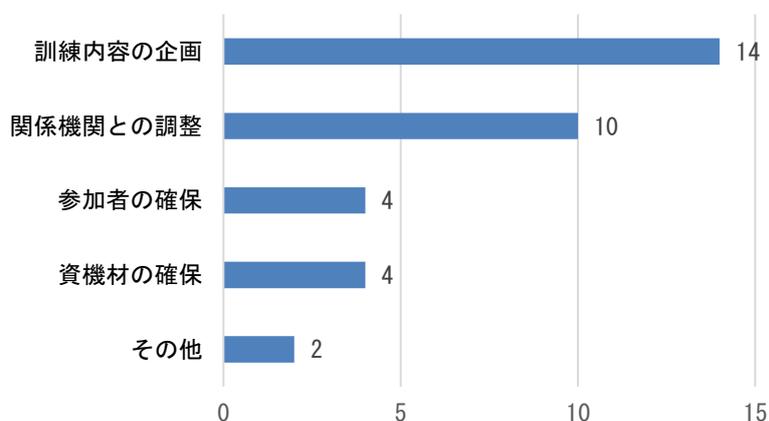
問9 来年度以降も、福祉避難所開設・運営訓練を続けていくことが必要だと思いますか？

| 回 答 | 回答数 | 割合 |
|--------|-----|-------|
| 必要だと思う | 24 | 96.0% |
| 必要ではない | 0 | 0.0% |
| わからない | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 1 | 4.0% |



問10 来年度以降、福祉避難所開設・運営訓練を実施するにあたり、課題となることはありますか？（複数回答可）

| 回 答 | 件数 | 割合 |
|----------|----|-------|
| 訓練内容の企画 | 14 | 48.0% |
| 関係機関との調整 | 10 | 40.0% |
| 参加者の確保 | 4 | 16.0% |
| 資機材の確保 | 4 | 16.0% |
| その他 | 3 | 12.0% |



▼「その他」の回答

- ・ 同じ内容でよいので、繰り返し実施することが大切です。
- ・ 準備にかなり時間を要すると思うので、県のサポートがあるとありがたいです。
- ・ 年度ごとにさまざまな想定を考えること（毎年同じ内容ではなく、災害の内容を変えるなど）が必要だと思います。
- ・ 行政間での連絡調整も重要です。

問 11 本日の訓練についてのご感想・ご意見を自由にお書きください。

1. 継続・改善への期待

- ・ 回数を重ねることで見えてくるものや課題が出てくると思います。
- ・ 全体のイメージはつかめました、細かいところはまだ検討が必要なのかなと思いました。
- ・ 関係機関と協力した訓練を毎年継続して実施されており、素晴らしいと思います。

2. 実施内容への評価・感想

- ・ 初めての機会でしたが、よかったです。
- ・ パーテーションを実際に設営し、広さの確認ができました。
- ・ 様々な立場からの意見を聞くことができ、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 大変有意義な研修でした。ありがとうございました。
- ・ 勉強になりました。復習し、もしもの際に備えたいと思います。
- ・ 関係機関が多く参加しており、とても有意義な訓練だったと思います。
- ・ とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・ 施設の場所や内容も確認でき、非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ とても有意義でした。ありがとうございました。

3. 継続実施への要望

- ・ 貴重な機会をありがとうございます。今後も継続してお願いします。

4. その他

- ・ 課内に周知したいので、本日のまとめを共有してください。

⑦ 訓練の検証結果

ア 理解度・有用性について

理解度については、「十分に理解できた」が 44.0%、「ある程度理解できた」が 56.0%と、参加者全員が一定以上の理解を深めた結果となりました。

有用性については、「たいへん役立った」が 76.0%、「まあまあ役立った」が 24.0%と、全員が役立ったと回答しており、訓練の実効性は非常に高く評価されています。

自由記述からは、「テントや段ボールベッドの実際の設営体験」「開設から運営の流れを通じた演習」「発電機の操作体験」など、実践的・体験的なプログラムが理解促進に大きく貢献したことが読み取れます。一方で、「避難所からの対象者選定や移送など、開設以前の流れへの理解が不足していた」という声もあり、訓練範囲の拡張についても検討が求められます。

イ 各訓練における主な課題と改善点

訓練で寄せられた意見を整理すると、以下のとおりです。

□ 設備・備品の見直し

- ・ 段ボールベッドの高さが低く、高齢者や足の悪い方には立ち上がりにくいとの指摘が複数あり、より適切な資機材への更新が求められます。
- ・ テント 9 張の想定は難しく、テント内での介助のしにくさ（支えとなるポールがない等）も課題として挙げられました。
- ・ 備蓄資機材を常にアップデートする必要性が示されています。

□ 情報共有・記録の整備

- ・ 情報共有の電子化、現場書式の見直しが必要とされています。
- ・ 食事対応が必要な避難者への情報の共有経路（誰が、何を、どのように）が整理されていない点が課題です。

□ 運営体制・スタッフの役割明確化

- ・ センターと市職員の役割分担を明確にし、定期的な訓練を継続することが不可欠です。
- ・ 介護スタッフの常駐なしには、市の運営スタッフだけでは対応が困難という認識が共有されました。

□ 避難者への対応・支援の充実

- ・ 長期化した場合のメンタルサポートへの配慮が必要です。
- ・ 医療的なアセスメント（水分摂取・内服状況の確認等）を誰が担うか、役割分担の明確化が求められます。

□ 個人情報・プライバシーへの配慮

- ・ 個人情報の取り扱いにより、書き写しという非効率な作業が生じており、省略・

電子化等の改善が必要です。

- 聞き取りの際、周囲への音漏れを防ぐため、別スペースへの移動やパーティション活用が推奨されます。

ウ 今後の重点課題

今後、特に取り組むべき課題は以下のとおりです。

| 課題項目 | 件数 | 割合 |
|-----------------------|------|-------|
| 福祉避難所に関する知識の習得（職員研修等） | 14 件 | 56.0% |
| 福祉避難所の開設・運営に必要な備蓄品の充実 | 11 件 | 44.0% |
| 市民への福祉避難所の理解促進 | 10 件 | 40.0% |
| 市内の福祉施設との災害時の連携強化 | 9 件 | 36.0% |
| 福祉避難所開設・運営マニュアルの見直し | 6 件 | 24.0% |
| 応援職員・DWAT 等の受入体制整備 | 6 件 | 24.0% |

最も多く挙げられた「知識習得のための研修実施」に加え、「備蓄品の充実」「市民への周知」が上位を占めており、ハード・ソフト両面からの体制強化が求められています。また、「対象となる方々から意見を聞く機会の創出」「避難想定者数の把握」といった視点も自由記述に見られ、当事者目線での取り組みの重要性が示唆されています。

エ 訓練継続の必要性

問9では、回答者の96.0%（24名）が「来年度以降も訓練の継続が必要」と回答しており、訓練継続への強い支持が示されました。

一方、問10では継続実施にあたっての課題として、「訓練内容の企画」が48.0%で最多となり、「関係機関との調整」（40.0%）が続きました。自由記述では「同じ内容の繰り返し実施が大切」という声がある一方、「毎年異なる想定（災害の種類等）を取り入れる」「県のサポートを活用する」「行政間の連絡調整を重視する」といった意見も寄せられており、継続性と内容の発展的更新を両立させることが課題といえます。

まとめ

参加者全員から高い評価を得るとともに、実運用を見据えた具体的な課題を明確にする機会となりました。体験・実践型のプログラムは理解促進に効果的であり、今後もこの形式を基本としながら、以下の取り組みを着実に推進していくことが重要です。

- 備蓄資機材の見直し・更新（段ボールベッドの改良、テント内介助への対応等）
- 情報共有・個人情報取り扱いの仕組み整備（電子化、書式見直し等）
- 運営スタッフの役割明確化と定期的な訓練の継続実施
- 関係機関・福祉施設との連携強化

- 市民への福祉避難所に関する理解促進

訓練の積み重ねによってこそ、実際の災害時における福祉避難所の迅速かつ適切な開設・運営が実現できます。今後も継続的な訓練実施と体制整備を通じて、要配慮者が安心して避難できる環境づくりを推進していくことが求められます。

4. 今後に向けた提言

令和7年度のモデル事業として、横須賀市・三浦市・鎌倉市の3市において福祉避難所の開設・運営訓練を実施しました。いずれの市においても参加者全員が「理解できた」「役立った」と回答しており、本訓練は初回の取り組みとして非常に高い成果を上げたと評価できます。

実際に身体を動かし、連絡・調整・受け入れの一連の流れを体験することで、「マニュアルを読むだけでは得られない実践的な理解」が広く醸成されました。これは座学や文書整備だけでは代替できない、訓練ならではの価値であり、今後の継続実施を強く支持する根拠となっています。

1. 三市に共通して確認された課題

各市の訓練結果を横断的に整理すると、以下の課題が共通して浮き彫りとなっています。

□ 職員研修・知識習得の不足

横須賀市 62.5%・三浦市 74.1%・鎌倉市 56.0%が「職員研修等による知識習得」を最重要課題として挙げており、全市で最上位または上位を占めています。研修は座学にとどまらず、実技を含む内容とすることが求められています。

□ マニュアルの整備・見直し

スクリーニング基準、受け入れ判断フロー、聞き取り書式、直接避難者への対応手順など、マニュアルに明示すべき事項が各市で多数指摘されています。訓練で得た気づきをマニュアルへ反映するPDCAサイクルの確立が急務です。

□ 連絡体制・情報共有の整備

複数部署・機関をまたぐ連絡フローの複雑さ、通信インフラが途絶した場合の代替手段、情報共有ツールの整備について、各市共通の課題として認識されました。

□ 設営・備蓄品の充実と習熟

エアマット・段ボールベッド・パーテーションなど、実際に組み立ててみて初めて課題が発覚するケースが相次いで報告されました。平時からの点検・習熟・代替品の検討が必要です。

□ 人員確保と体制の継続性

職員の異動や参集可能人数の不安、夜間対応の難しさなど、継続的な人材育成と体制整備の重要性が確認されました。

2. 各市の特徴的な取り組みと示唆

- 横須賀市では、二次・三次福祉避難所の開設から保健師によるスクリーニング、移行優先度の決定、受け入れまでの一連の流れを段階的に訓練しており、市全体

の連携フローを俯瞰して理解できる設計が高く評価されています。一方、受け入れ基準の明確化と意思決定権限の整理が引き続き課題です。

- 三浦市では、BCP に基づく初動対応から医療的ケアが必要な利用者の施設間受け入れ、携帯トイレの設置訓練まで多様な場面を盛り込んだ訓練が実施され、現場の実態に即した内容として高評価を受けました。施設間の開設手順等の標準化が今後の重点事項です。
- 鎌倉市では、地域包括支援センターとの協定に基づく専門職の派遣要請・困りごと相談・情報共有会議・発電機操作という運営フェーズに特化した内容が実施され、開設後の継続運営に向けた気づきが多く得られました。個人情報取り扱いや情報共有の電子化、避難者のメンタルサポートなど、より実践的な課題が明確になっています。

3. 今後に向けた提言

本訓練を通じて得た成果と課題を踏まえ、以下の方向性で取り組みを進めることが重要です。

① 訓練の継続と内製化

3市とも90%前後の参加者が「訓練継続が必要」と回答しています。今後は、県によるモデル事業への依存から脱し、各市・各施設が自ら企画・実施できる体制—いわば「訓練の内製化・自走化」—を段階的に構築することが求められます。大規模訓練だけでなく、訓練の一部を切り取った小規模・定期的な実施も有効です。

② 参加対象の拡大と組織横断的な取り組み

訓練の効果を組織全体に波及させるため、係長級だけでなく一般職・リーダー級の職員、さらには協定未締結の施設・地域住民・関係団体への拡大が必要です。異動による担当者の入れ替わりにも対応できる、継続的な人材育成の仕組みが不可欠です。

③ 訓練で得た気づきの計画・マニュアルへの反映

訓練は「実施して終わり」ではなく、そこで得られた課題を計画・マニュアルの改善に確実につなげるサイクルを確立することが重要です。スクリーニング基準・受け入れ判断フロー・連絡体制・資機材管理など、実務に直結する事項から優先的に整備を進めてください。

④ 多様な想定シナリオへの挑戦

現状はスムーズに進行するシナリオが中心ですが、今後は通信途絶・停電・職員不足・トラブル発生など、より困難な状況を想定したシナリオも取り入れ、段階的にレベルアップした訓練設計を目指すことが望まれます。

⑤ 福祉避難所と緊急入所の区別した対応

今回の訓練では、福祉避難所の開設・運営をテーマとして取り上げましたが、実務

の現場では「介護が必要な避難者＝福祉避難所」という認識が先行しており、緊急入所という選択肢が十分に周知・活用されていない自治体も少なくないと考えられます。

この区別が整理されていないまま運用されると、避難者に対して適切な支援が提供されないばかりか、福祉避難所への過度な集中や施設側への過大な負担を招く恐れがあります。

今後は、以下の点について整理・周知を進めることが重要です。

- 福祉避難所と緊急入所それぞれの対象者・目的・判断基準をマニュアルに明記する
- スクリーニングの段階で、「福祉避難所での対応が適切か」「施設への緊急入所が必要か」を判断できるフローを整備する
- 市職員・施設職員・関係機関が共通認識を持てるよう、研修や訓練の中で両者の違いを意識的に取り上げる

福祉避難所の機能を適切に発揮するためにも、緊急入所との役割分担を明確にした上で、場面に応じた柔軟な対応ができる体制づくりが求められます。

⑥ 福祉避難所の開設に必要な物品の整備

今回の訓練では、福祉避難所の開設に必要な物品をまとめた「開設キット」を準備した上で訓練を実施しました。実際に物品を手にして動くことで、何が必要で何が足りないかを具体的に把握できる有意義な取り組みとなりました。

一方で、自治体によっては、福祉避難所として指定された施設にベッドや間仕切りなどの備品が十分に整備されていない実態があります。早急に必要な物品については計画的に整備を進めることが不可欠です。

今後は、以下の点について取り組みを進めることが重要です。

- 各福祉避難所において、開設・運営に最低限必要な物品を洗い出し、現状との不足を把握する
- 緊急性の高い物品（ベッド、間仕切り・パーテーション等）から優先的に整備・配備を進める

物品の整備は、福祉避難所を「名目上の指定」にとどめず、実際に機能する避難環境として機能させるための基盤です。ハード面の充実と、それを生かすための訓練・周知をあわせて推進していくことが求められます。

4. まとめ

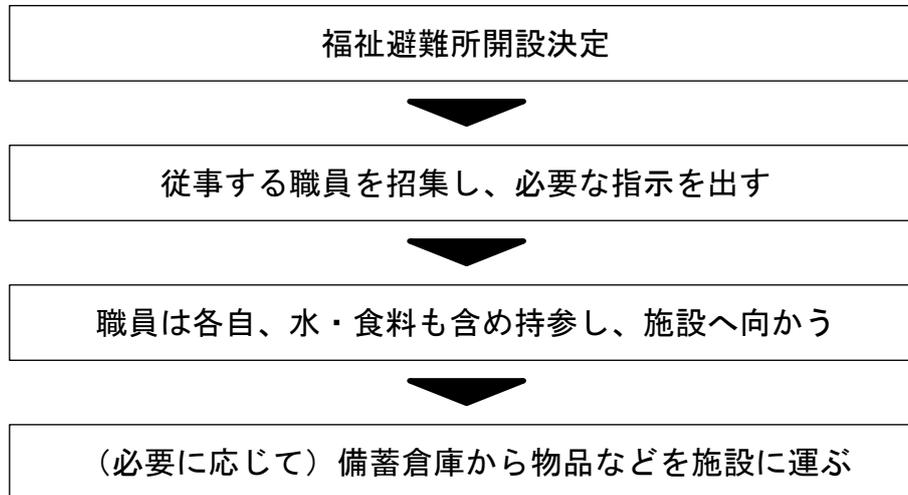
福祉避難所の開設・運営能力の向上は、高齢者・障害者・乳幼児など、災害時に最も支援を必要とする方々の命と安全を守るための根幹です。今回の訓練はその第一歩として大きな意義を持ち、参加者一人ひとりに「自分ごと」としての意識と備えをもたらしました。

一方で、実際の災害場面で機能する体制を構築するには、今回明らかになった課題を着実に解消しながら、訓練・研修・マニュアル整備・連携強化を継続的に積み重ね

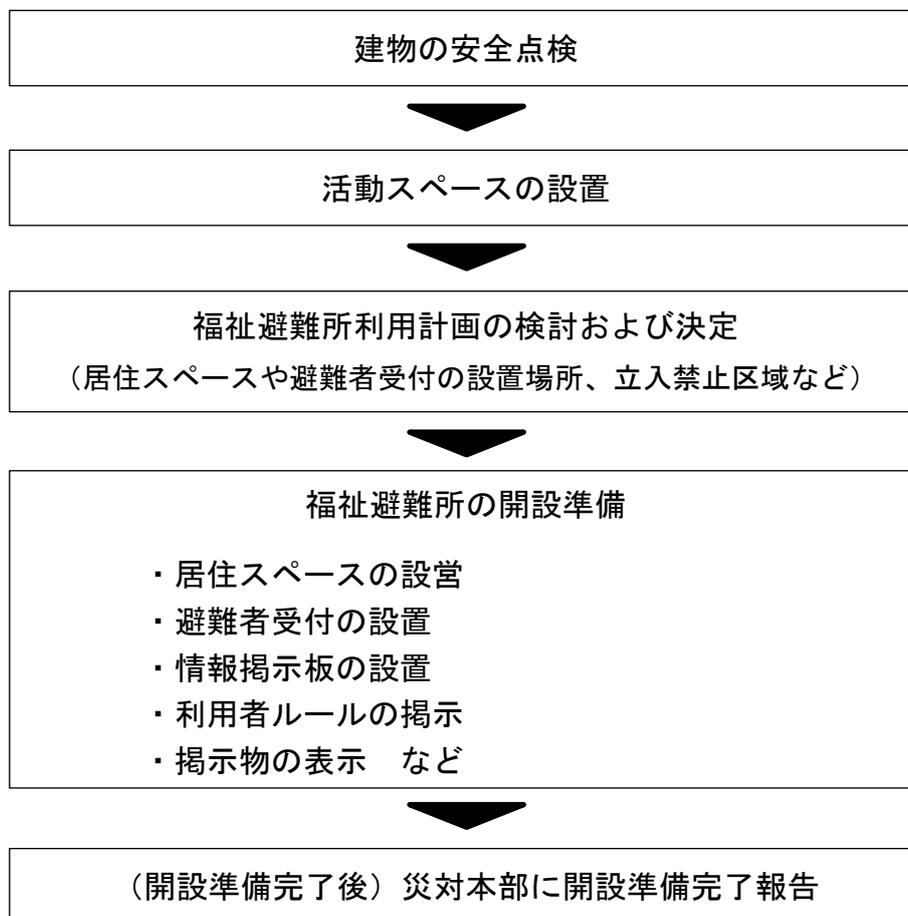
ていくことが不可欠です。市・施設・関係機関が一体となり、要配慮者が安心して避難できる地域づくりに向けて、引き続き組織全体での取り組みを強力に推進していただくことを期待します。

福祉避難所開設簡易マニュアル（行政職員向け）

■ 市町村災害対策本部



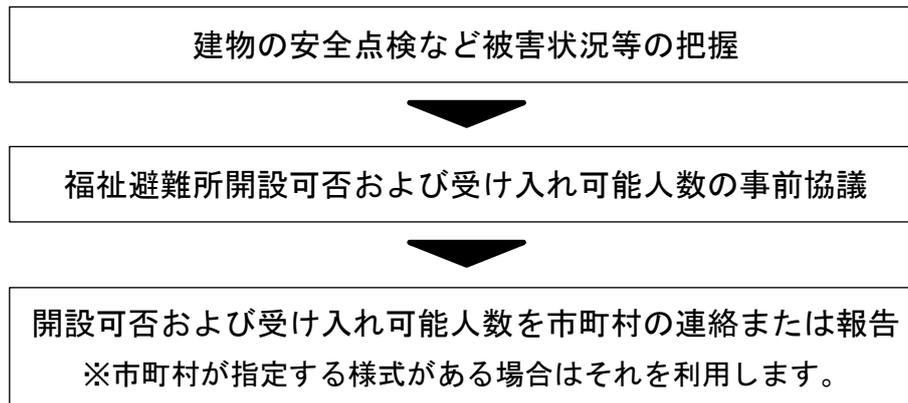
■ 福祉避難所を開設する施設到着後



福祉避難所開設簡易マニュアル（協定施設向け）

■ 事前協議

市町村と福祉避難所の開設・運営に関する協定を締結している福祉施設は、市町村から開設可否の確認連絡が入る可能性が高いときは、事前に施設内で協議することが重要です。



■ 市町村から福祉避難所の開設要請を受けた場合

